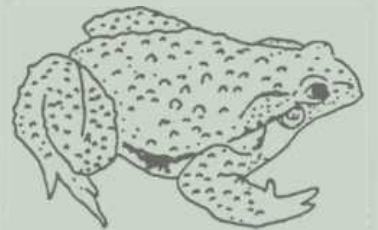




すぎなみの生き物たち3

—すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ—

杉並区環境清掃部環境課



はじめに

杉並区ではこれまでに区内の自然環境を知る手がかりとして、専門調査員による杉並区自然環境調査と区民のみなさんの協力による生き物アンケート調査を行ってきました。第1回調査は昭和60・61（1985・1986）年度に実施し、その後5年ごとに行い、今回の第4回調査※は平成12・13（2000・2001）年度に調査を行いました。

調査を開始して15年が経過し、みなさんはこの間の生き物たちのようすをどのように感じていらっしゃるでしょうか。この冊子は、上記の2つの調査結果をもとに、現在の「すぎなみの生き物たち」をまとめたものです。今までに発行された平成4年度版と平成9年度版は、主にアンケート調査の結果をもとにまとめたものでしたが、今回は、詳細な現地調査をもとにまとめられた「杉並区自然環境調査報告書（第4次）」からの抜粋と合わせて、区内の生き物たちの様子をお知らせします。

※自然環境調査では「第〇次」、アンケート調査では「第〇回」としている。

杉並区自然環境調査の内容

内容	第1次			第2次		第3次		第4次	
	昭和			平成		平成		平成	
	60年度 (1985年度)	61年度 (1986年度)	62年度 (1987年度)	2年度 (1990年度)	3年度 (1991年度)	7年度 (1990年度)	8年度 (1991年度)	12年度 (2000年度)	13年度 (2001年度)
植物	高等植物	○	○	○	○	○	○	○	○
	蘚苔類	○	○	○	○	○	○		
動物	クモ類	○	○	○	○	○	○	○	○
	昆虫類	○	○	○	○	○	○	○	○
	鳥類	○	○	○		○	○	○	○

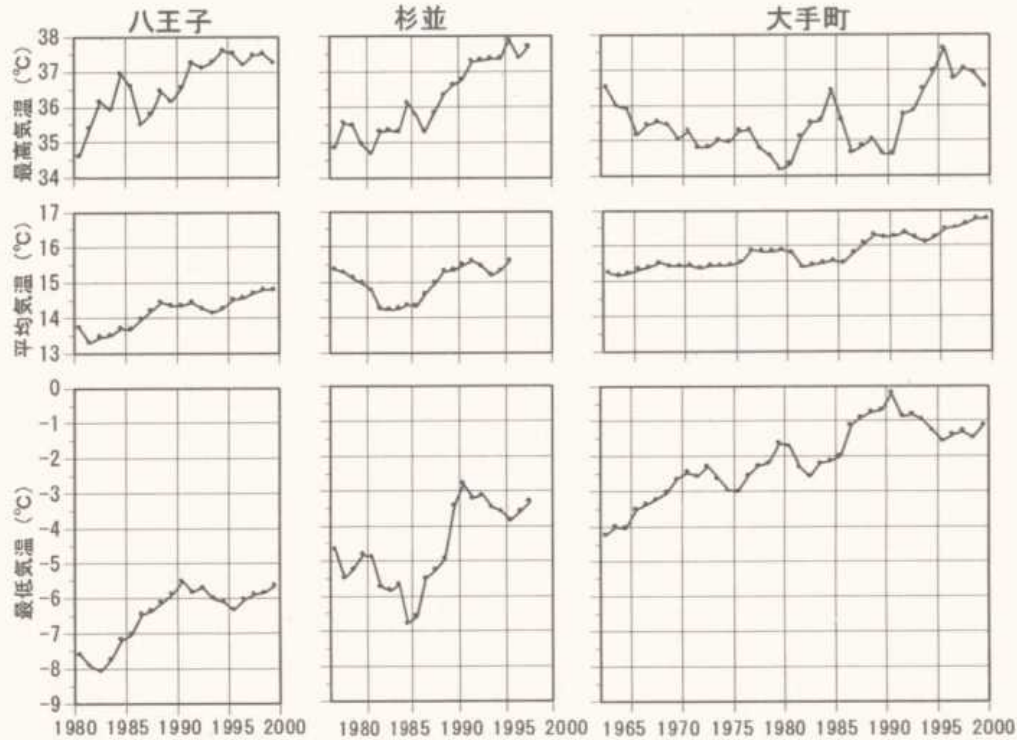
杉並区生き物アンケート調査の内容

内容	第1回 昭和		第2回 平成		第3回 平成		第4回 平成			
	60年度 (1985年度)	61年度 (1986年度)	2年度 (1990年度)	3年度 (1991年度)	7年度 (1990年度)	8年度 (1991年度)	12年度 (2000年度)	13年度 (2001年度)		
植物	春の野草	○		○	○	○	○	○	○	
	夏の野草	○		○	○	○	○	○	○	
	秋の野草	○		○	○	○	○	○	○	
動物	オニグモ・ジョロウグモ	○		○	○	○	○	○	○	
	セミのぬけがらしらべ	○		○	○	○	○	○	○	
	夏の昆虫					○	○	○	○	
	秋の昆虫					○	○	○	○	
	餌台にくる鳥	○		○	○	○	○	○	○	
	鳥の食性調査	○				○	○	○	○	
	鳥の集団ねぐら	○		○	○	○	○	○	○	
	冬の野鳥	○		○	○	○	○	○	○	
	冬の水鳥					○	○	○	○	
	ツバメの巣しらべ	○		○	○	○	○	○	○	
	小動物	(両生類)		○	○	○	○	○	○	○
		(は虫類)		○	○	○	○	○	○	○
		(ほ乳類)		○	○	○	○	○	○	○

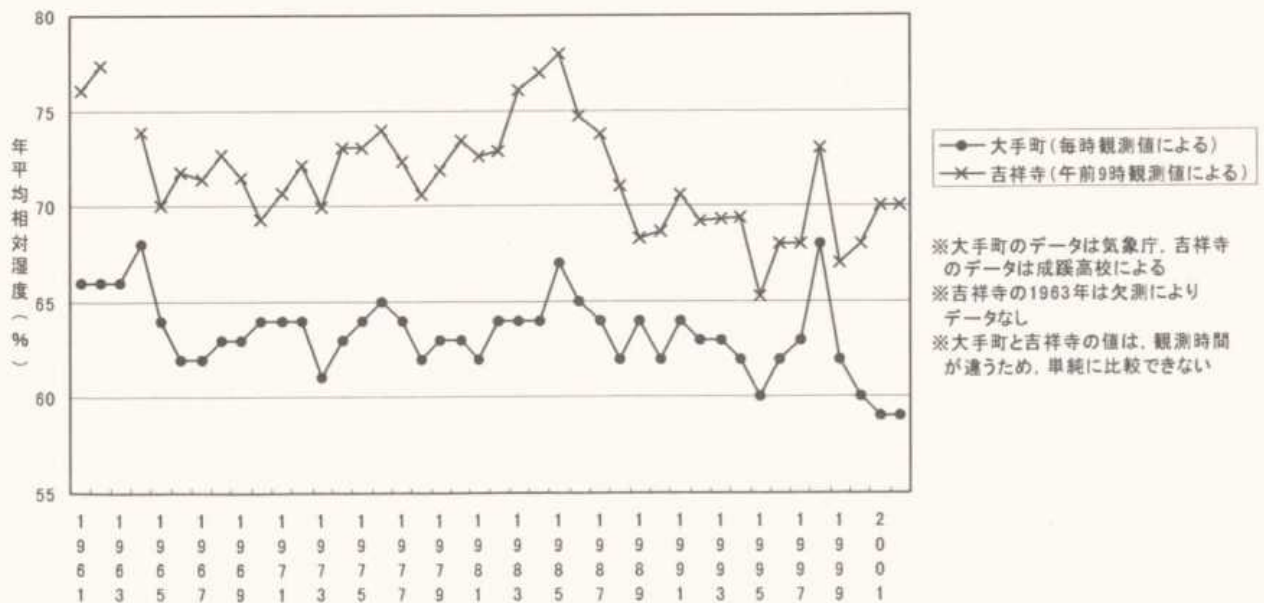
(2) 気候、大気の状況

杉並区は、東京が温暖で内陸より晴天が少ない海洋性気候で、八王子が気温の日較差や年較差が大きく冬期は乾燥した晴天が続く内陸性気候なのに対して、その中間的な気候となっています。最近ではヒートアイランド現象による気温の上昇がみられ、相対湿度が低下し乾燥化しつつあることがうかがえます。

年平均気温、最高気温、最低気温の推移



年平均相対湿度の推移



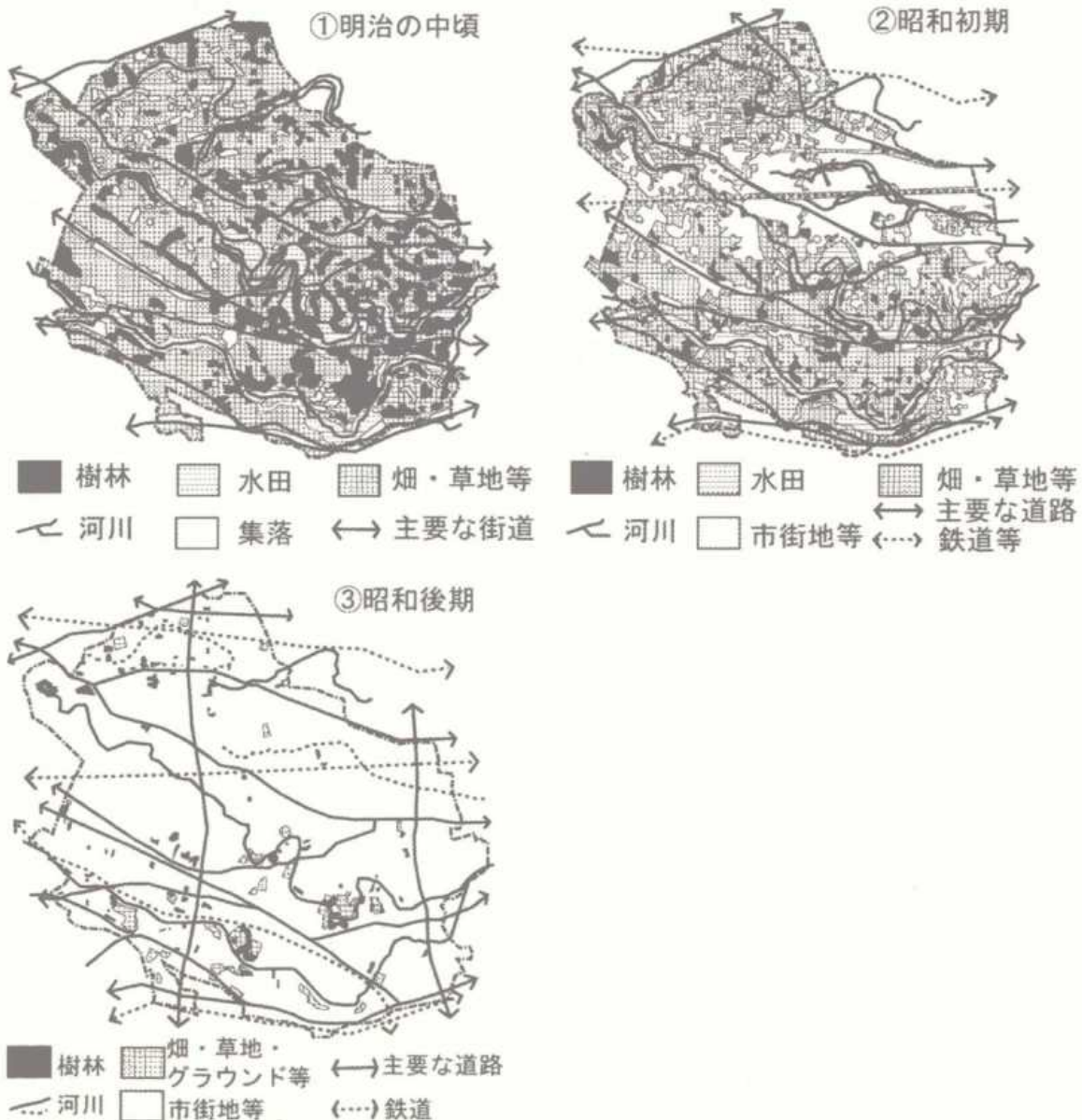
(3) みどりの状況

杉並区では、明治時代頃は農地とコナラやアカマツの雑木林が広がっていましたが、それ以降市街化が徐々に進み、現在では市街地がほとんどを占めています。河川沿いの低地には水田がありました。現在ではなくなってしまいました。樹林地と草地を合わせた緑被率も、約40年ほど前から急激に減少し、最近でも徐々に減少し続けています。

樹林地や緑地は、大きくても10ha前後で、善福寺川や神田川沿いにややまとまっているものの、それぞれ散在し孤立しています。周辺にも玉川上水と連続して上流部の武蔵野市や三鷹市に井の頭公園が、北側の練馬区には石神井公園などのまとまりのある緑地がありますが、それらはいずれも孤立しています。小規模な社寺林や屋敷林、公園やグラウンドなどの植栽地や緑の比較的多い住宅団地なども区内に点在しています。

このように、善福寺川上流側の善福寺公園周辺や下流側の和田堀公園周辺などの樹林地や水辺のある比較的まとまりのある緑地、その他川沿いの斜面樹林を中心にした緑地、台地部に小規模で点在している樹林地や植栽地や農地など、少ないながらも多様なみどりが杉並区には見られます。

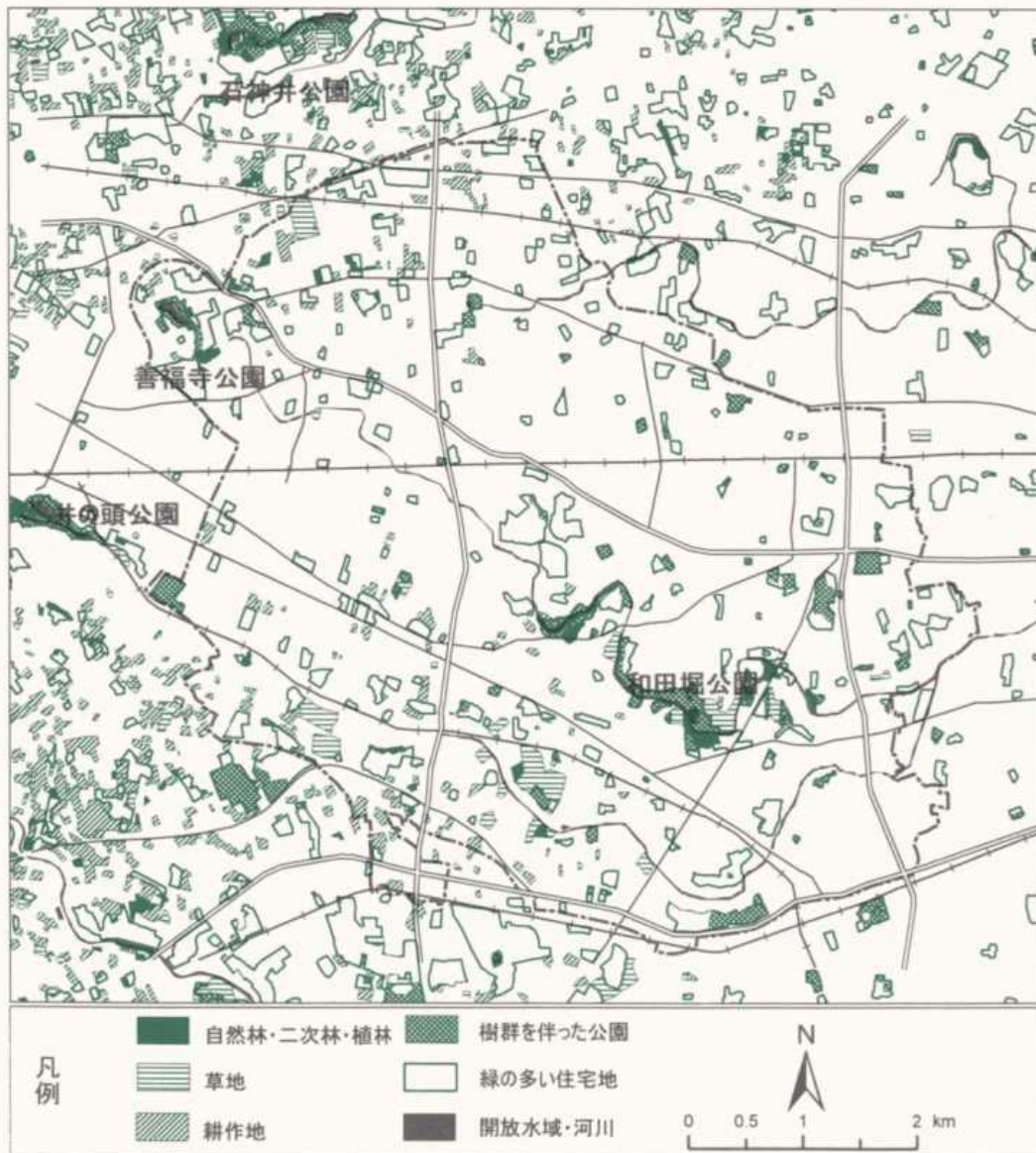
杉並区のみどりの変遷



緑被率の経年変化



杉並区の植生



東京都現存植生図（東京都、1998）をもとに作成

2 植物

杉並区の野生植物は、今回の調査で108科570種類が確認され、過去の調査に比べて種類数がやや減少しています。これまでの1～4次の調査結果を合わせると合計119科744種類が確認されています。野生植物以外の植栽種は、今回の調査で94科299種類、これまでの調査結果を合わせると112科448種類が確認されています。野生植物と植栽植物を合わせると、1～4次の調査結果の総合で155科1192種類になります。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブック*に掲載されている植物、また杉並区内では分布が限られ数が少ない種類や近年減少し分布が少なくなっている種類などの注目種は、今回30科52種類確認されています。これらは、絶滅が危惧される種類などであるため、区内で保護する必要があると考えられる種類といえます。これらの注目種は前回までの調査時の確認種に比べてやや減少しています。

※絶滅のおそれのある野生生物の種の生息状況等を取りまとめたもの。

高等植物の出現種類数*1

区分				第1次		第2次		第3次		第4次		計	
				科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
野生*2	シダ植物			12	25	12	26	15	31	10	24	15	35
	裸子植物			3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	55	256	57	294	55	286	55	263	58	334
			合弁花類	24	146	25	164	24	154	24	146	25	185
		単子葉植物		16	146	17	158	17	151	15	133	18	186
計			110	577	114	646	114	626	107	570	119	744	
植栽*3				81	199	101	335	103	365	94	299	112	448
合計				135	776	146	981	149	991	142	869	155	1192

※1 変種、品種を含む。ただし不明種(〇〇属sp.など)は除いた。

※2 在来種その他、帰化種、野生状態にある逸出種を含む。

※3 公共の場に植栽された造園樹木および在来種の草本植物を含むが、個人邸の低木、および園芸品種等の栽培品の草本植物は含まない。

注目種

科名	種名	国 ^{※1}	東京 ^{※2}	区 ^{※3}	1次	2次	3次	4次	備考	科名	種名	国 ^{※1}	東京 ^{※2}	区 ^{※3}	1次	2次	3次	4次	備考
キク科	アキノハコグサ	EN	UK			●	●			トウダイグサ科	ナツウダイ			A	●	●	●	●	
ユキノシタ科	タコアシ	VU	A	B	●	●	●			ウコキ科	ハリキリ			A	●	●	●	●	
キク科	オオニガナ	VU	A			●	●			キク科	オヤマホクチ			A		●	●	●	
ラン科	エビネ	VU	A	B	●	●	●	●	一部植栽	ウラボシ科	マメヅタ			A	●	●	●		
タデ科	ヤナギスカホ	VU	UK					●		ナデシコ科	ナンハンハコベ			A	●	●	●		
ミクリ科	タマクリ	VU		A				●		アカハナ科	ミス'タマソウ			A	●	●	●		
ラン科	キンラン	VU		B	●	●	●	●		セリ科	ムラサキミツバ			A	●	●	●		
メキ科	イカリソウ		A	B	●	●	●	●	全て植栽	シソ科	オドリコソウ			A		●	●	●	
ケシ科	ヤマフキソウ		A	A		●	●	●	一部植栽	シソ科	キバナアキギリ			A		●	●		
ナス科	イガホオズキ		A					●		オミナエシ科	オミナエシ			A	●	●	●		
ユリ科	カタクリ		A	A	●	●	●	●		ミス'ワビ科	タチシノブ			A			●		
アヤメ科	ノハナショウブ		A					●	全て植栽	フサシダ科	カニクサ			B	●	●	●	●	
タデ科	サクラタデ		B			●	●	●		イノモトソウ科	オオハ'ノイモトソウ			B	●	●	●	●	
マメ科	ノアスキ		B	B	●	●	●	●		キンホウケ科	ニリンソウ			B	●	●	●	●	
ウリ科	ゴキヅル		B					●		キンホウケ科	イチリンソウ			B	●	●	●	●	
ゴマノハクサ科	シソクサ		B					●		キンホウケ科	イヌショウマ			B	●	●	●	●	
キツネノマゴ科	ハグ'ロノウ		B			●	●	●		センリョウ科	ヒトリシズカ			B	●	●	●	●	
オモトカ科	ヘラオモトカ		B			●	●	●		センリョウ科	フタリシズカ			B	●	●	●	●	
ユリ科	ヤマシ'ノホトギス		B			●		●		トウダイグサ科	ヒトツバ'ハキ			B	●	●	●	●	
イグサ科	ホソイ		B			●				シソ科	アキナムラソウ			B	●	●	●	●	
ハナヤスリ科	ナツ'ノハナワラビ		C					●		キキョウ科	ツリカ'ネニンジン			B	●	●	●	●	
ハナヤスリ科	コ'ハナヤスリ		C	A	●	●	●	●		キキョウ科	ホタル'アクロ			B	●	●	●	●	
ウラボシ科	マメ'ヅタ		C			●	●	●		キク科	ノア'ザミ			B	●	●	●	●	
ヤナギ科	ネコ'ヤナギ		C					●		キク科	ノハラ'アザミ			B	●	●	●	●	
カハ'ノキ科	ハン'ノキ		C			●		●	一部植栽	ユリ科	ナル'コユリ			B	●	●	●	●	
カハ'ノキ科	ツ'ノハシバミ		C					●	植栽の可能性	ユリ科	ヤマ'ホトギス			B	●	●	●	●	
ブナ科	ウラ'シ'ロカシ		C					●		ヒカン'ハナ科	キツ'ネノカミソリ			B	●	●	●	●	
イラクサ科	カテン'ソウ		C			●	●	●		イネ科	マ'コモ			B	●	●	●	●	
イラクサ科	ミス'		C			●	●	●		ガマ科	ヒ'カ'マ			B	●	●	●	●	
ナデ'シコ科	ナン'ハンハコベ		C			●		●		ラン科	キン'ラン			B	●	●	●	●	
ナデ'シコ科	フシ'ゴロセンノウ		C					●		ラン科	シュ'ラン			B	●	●	●	●	
キンホウ'ケ科	サラ'シ'ノショウマ		C	B	●	●	●	●		ヒルム'シロ科	ヤナ'ギモ			B	●	●	●		
ユキ'ノシタ科	チ'ダケサシ		C	B	●	●	●	●		ミス'アオイ科	コ'ナギ			B	●	●	●		
マメ科	キ'ハギ		C			●	●	●		ユリ科	ワ'ニク'チソウ			B	●	●	●	●	
スミレ科	ヒカ'ゲスミレ		C			●	●	●	一部植栽	ユリ科	エン'レイソウ			B	●	●	●	●	
シソ科	キ'バナアキギリ		C					●		ヤマコ'ホウ科	ヤマ'コ'ホウ			B	●	●	●	●	
オミナ'エシ科	ツル'カノソウ		C			●	●	●		キンホウ'ケ科	ヒ'メウス			B	●	●	●	●	
ユリ科	アマ'ナ		C	B	●	●	●	●		クス'ノキ科	ク'ロモシ			B	●	●	●	●	
イネ科	サ'サクサ		C			●	●	●		ニシ'キキ科	ツ'リ'ハナ			B		●			
スミレ科	ア'リアケスミレ		C			●	●	●		ジン'チョウケ'科	オ'ニシ'ハリ			B	●				
ケシ科	キ'ケマン		UK			●				キク科	モ'シ'カ'サ			B	●	●	●		
シソ科	ヒ'キオコシ		UK			●				ハナ'ヤスリ科	オ'オハ'ナワラビ			B		●	●	●	
ゴマ'ノハク'サ科	サ'ワトウ'カラシ		UK					●		オン'ダ'科	ク'マワ'ラビ			B		●	●	●	
キク科	オ'ナモミ		UK			●	●	●		キク科	ガ'ンク'ビ'ソウ			B	●	●	●	●	
ユリ科	ヤマ'ラツキョウ		UK					●		計		89	7	43	56	62	73	73	52

※1 環境省

出典：改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-，環境庁，2000。

DD：評価するだけの情報が不足している種。

EX：絶滅（我が国ではすでに絶滅したと考えられる種）。

EW：野生絶滅（飼育・栽培下でのみ存続している種）。

CR：絶滅危惧ⅠA類（絶滅の危機に瀕している種）

EN：絶滅危惧ⅠB類（同上）。

VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種）。

NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが，生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）。

※2 東京都

出典：東京都の保護上重要な植物，東京都，1998。

A：（国の）絶滅危惧種に相当する種。

B：（国の）危急種に相当する種。

C：（国の）希少種に相当する種。

D：絶滅種。近年，信頼できる生息情報がない種。

UK：評価に足る情報が得られなかった種（植物について，生育環境は存在していると考えられるが，生育の現状が不明な種を含む。）。

※3 杉並区

本調査によって選定された杉並区の注目種

A：元来，区内での分布が限られ数が少ない種。

B：これまでは広い範囲に分布していたが，近年減少している種。

■杉並区の主な環境に生育する植物

杉並区は市街地の中に樹林地や水辺が孤立して存在する典型的な都市環境にあり、常緑樹林や落葉樹林などに生育する樹林性の植物、林縁や草地に生育する植物、池や小河川などに生育する水辺の植物、都市に適応した植物などの多様な植物がみられます。ここでは区内の主な環境に生育している代表的な植物を紹介します。

＜うっそうとした樹林＞常緑広葉樹の樹木が多く林の中も植物が密生しており、社寺林や屋敷林として残された林で、区内では場所が限られ規模も小さい



ヤブコウジ 暖温帯の照葉樹林の林床に生育する常緑の小低木で12月頃に赤い実をつける



ノキシノブ 樹木の幹などに着生するシダ植物で薄暗い湿った環境を好む

＜明るい雑木林＞落葉広葉樹の林で林内が比較的すっきりしていて明るく、薪炭林などに利用されていた林で、川沿いの斜面などに点々と残されている



ヌスピトハギ 明るい樹林の林床に生育し、実は人やけものに付きやすくそれによって運ばれる



ガマズミ 主に落葉広葉樹林の林内に生育し落葉低木で秋に赤い実をつける

＜樹林の林縁＞林内の暗い環境から林外の明るい環境に移り変わる場所で、低木やつる植物が密生したやぶになり、やぶの外には様々な草本植物が生育する



モミジイチゴ とげのある落葉低木で、初夏に黄色い実を付けるイチゴの仲間



クズ 繁殖力が旺盛なつる植物で、大きな三枚葉が特徴。秋の七草の1つ

＜草地＞定期的な刈り取りが古くから続けられてきた場所は、多種類の草本植物が生える草原となり、河川沿いや線路沿いの一部にみられるが、区内では少なくなっている



ススキ 秋の七草の一つで、背丈が1~2mになる多年草



ワレモコウ 秋に赤紫色の花を咲かす背丈が0.5~1m前後の多年草

＜水辺の草地＞水がかぶる比較的浅い池の縁や河川の水辺にみられる湿性草原で、善福寺池や和田堀池などの池、善福寺川や神田川など、場所がごく限られている



ガマ類(ガマ、ヒメガマ、カマ)
※イラストはガマ
やや深い水中にも生える円柱型の穂が特徴の大型多年草



ミソソバ 水辺の溝などに普通にみられ、秋にピンク色の花をつけるソバに似た多年草。杉並では減っている

＜都市の空き地の雑草地:市街地のちょっとした空き地や道ばたの外来種が多い草地＞区内のあちこちで見られる



ハルジオン 春に白~ピンク色の花をつけ都市に広く帰化するキク科植物



チチコグサモドキとウラボシチチコグサ
※イラストはチチコグサ
近年特に都市に進出している帰化植物

■杉並区の代表的な場所の植物の状況

今回調査を行った場所は、環境条件の違いにより5つのタイプに分けられます。大きくは、「まとまりのある樹林地を中心とする緑地」、「植栽地を中心とする緑地」、「草地を中心とする緑地」で、まとまりのある樹林地を中心とする緑地はさらに、「主に台地上にあり常緑樹林を有する緑地」、「主に台地から斜面にあり雑木林を有する緑地」、「台地・斜面・低地にまたがり樹林地から植栽地や池まで多様な環境を有する緑地」に分けられます。それぞれのタイプの代表的な場所の出現種類数と帰化率[※]の変化を見ると、つぎのようなことが分かります。

「まとまりのある樹林地を中心とする緑地」の「主に台地上にあり常緑樹林を有する緑地（代表地：観泉寺）」と「主に台地から斜面にあり雑木林を有する緑地（代表地：大蔵省グラウンド）」では、出現種類数が変わらないかやや増加しているのに対して、帰化率が徐々に増加しており、人為的なかくらんが進んでいることがうかがえます。

「まとまりのある樹林地を中心とする緑地」の「台地・斜面・低地にまたがり樹林地から植栽地や池まで多様な環境を有する緑地（代表地：善福寺公園下池）」では、出現種類数及び帰化率とも大きな変化がありませんが、全体としては植生がやや単純になる傾向が見られます。

「植栽地を中心とする緑地（代表地：善福寺川緑地下流部）」、「草地を中心とする緑地（代表地：神田川中流部）」では、出現種類数が増加しているにもかかわらず、帰化率はそれほど変化していません。これは、植栽地などが安定して在来種も増加し、自然の植生がわずかですが戻りつつあることがうかがえます。

環境条件の異なる代表地における出現種類数と帰化率[※]の変化

区分		出現種類数	帰化率
I まとまりのある樹林地を中心とする緑地	I-1 主に台地上にあり常緑樹林を有する緑地	観泉寺 出現種類数: 第1次 170, 第2次 240, 第3次 230, 第4次 220	観泉寺 帰化率(%): 第1次 8, 第2次 12, 第3次 14, 第4次 16
	I-2 主に台地から斜面にあり雑木林を有する緑地	大蔵省グラウンド 出現種類数: 第1次 160, 第2次 170, 第3次 200, 第4次 230	大蔵省グラウンド 帰化率(%): 第1次 8, 第2次 12, 第3次 14, 第4次 16
	I-3 台地・斜面・低地にまたがり樹林地から植栽地や池まで多様な環境を有する緑地	善福寺公園下池 出現種類数: 第1次 190, 第2次 220, 第3次 180, 第4次 180	善福寺公園下池 帰化率(%): 第1次 18, 第2次 18, 第3次 18, 第4次 18
II 植栽地を中心とする緑地	善福寺川緑地下流部 出現種類数: 第1次 130, 第2次 150, 第3次 160, 第4次 170	善福寺川緑地下流部 帰化率(%): 第1次 25, 第2次 22, 第3次 22, 第4次 25	
III 草地を中心とする緑地	神田川中流部 出現種類数: 第1次 100, 第2次 110, 第3次 130, 第4次 140	神田川中流部 帰化率(%): 第1次 30, 第2次 35, 第3次 28, 第4次 28	

※ある場所に生える帰化植物の種類数が全植物の種類数（植栽植物は除く）に対して占める割合のこと。帰化植物とは、人間の媒介によって、本来の自生地から他の地域に移動し新しい土地で繁殖を続けている植物のことをいい、弥生時代頃のイネの栽培に伴って日本に入ってきたと考えられる植物（史前帰化植物）、その後農業に伴って入ってきたと考えられる植物（旧帰化植物）、江戸時代の末期から現代にかけて入ってきたと考えられる帰化植物（新帰化植物）などがある。一般に狭義の帰化植物とされているものは、江戸時代末期から現代にかけての導入経路のはっきりしている新帰化植物であり、ここでいう帰化植物も新帰化植物を指している。

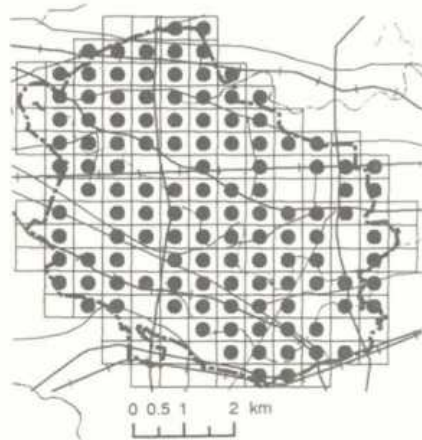
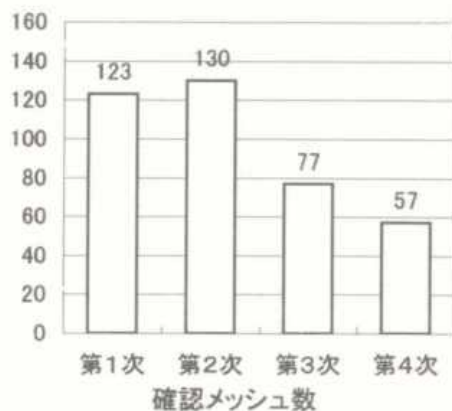
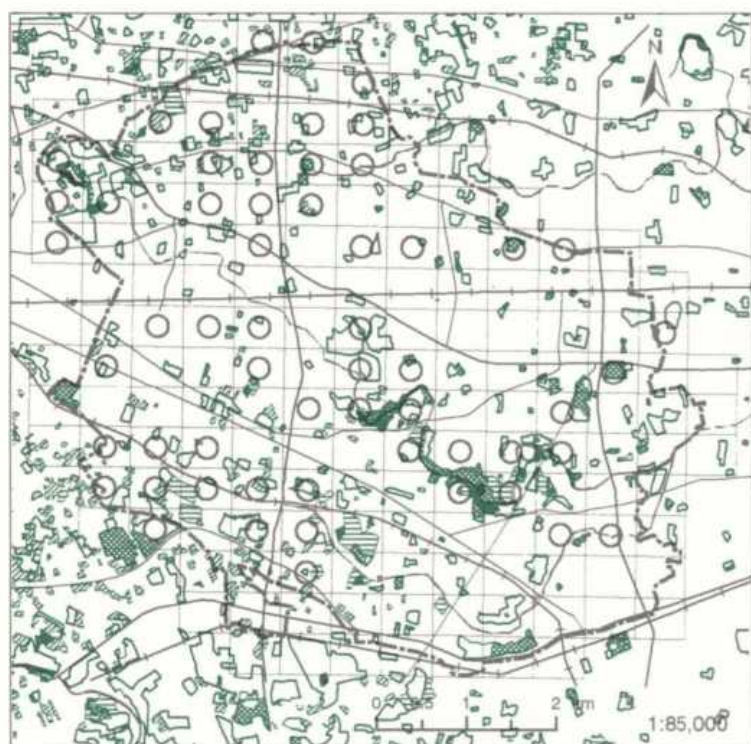
■主な植物の生育状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

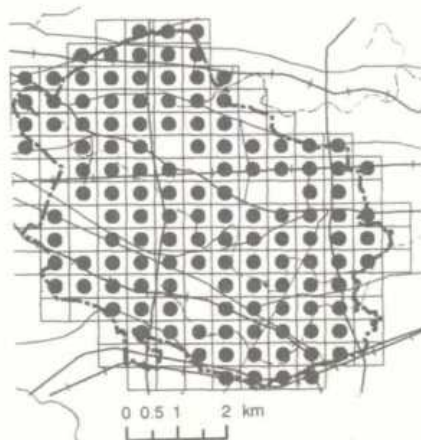
ヨモギ

日当たりのよい道ばたで踏圧の少ないところに生育し、農村などではごく普通にみられる植物です。

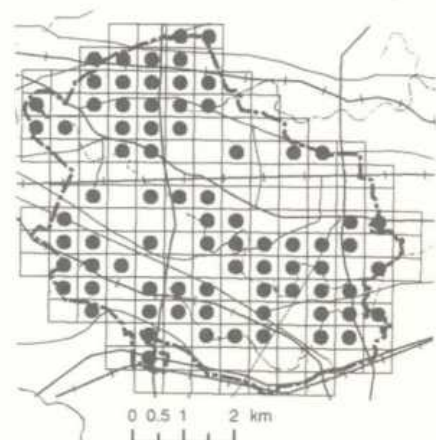
第1回や第2回の調査では区内のほぼ全域で確認されましたが、それ以降徐々に減少し、今回の調査では最も多い時点の分布の半分に減少しています。今回確認された場所は、みどりの多いところと重なっており、かつて普通に見られたヨモギが市街化の進行によりさらに減少することが予測されます。



■第1回調査



■第2回調査

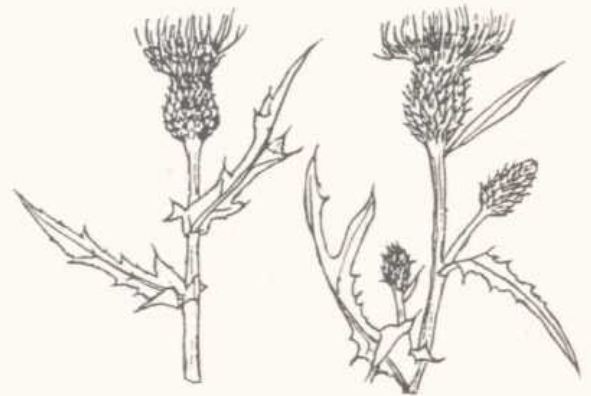
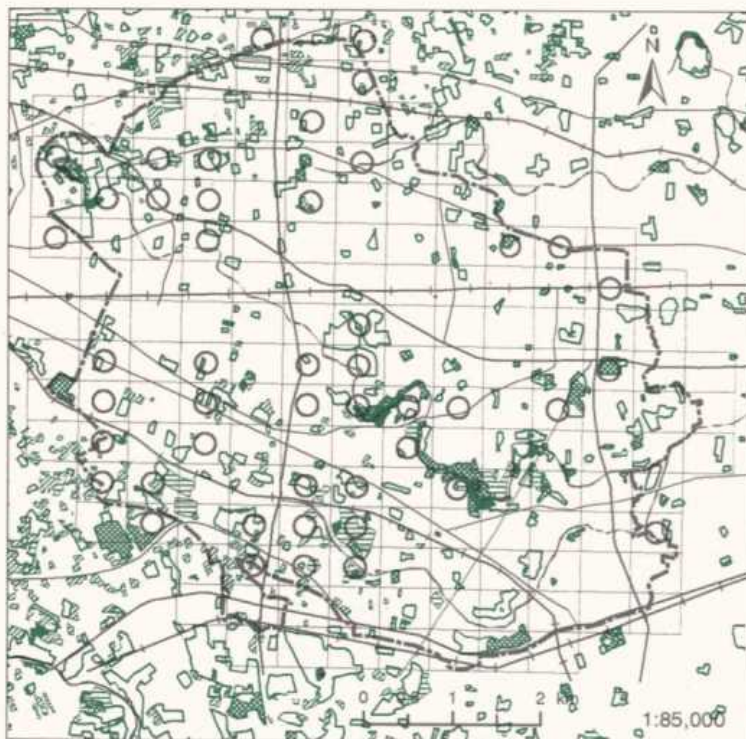


■第3回調査

ノアザミ、ノハラアザミ

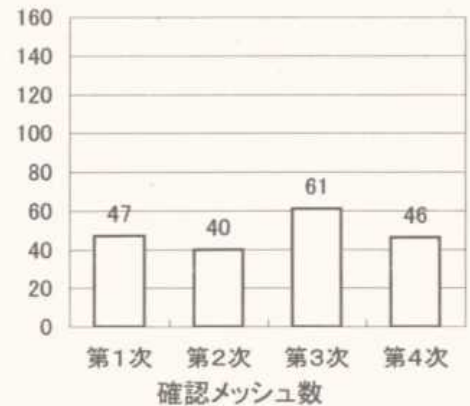
この2種類のアザミは似ており、いずれも日当たりのよい草地などにみられます。ノアザミは春から夏に、ノハラアザミは夏から秋に紫色の花をつけ、ノアザミは花のものとところ（総ぼう）がねばることで区別が付きませす。

分布の増減はみられませんでした。今回確認された場所は、緑の多いところと重なる傾向にあります。



ノアザミ

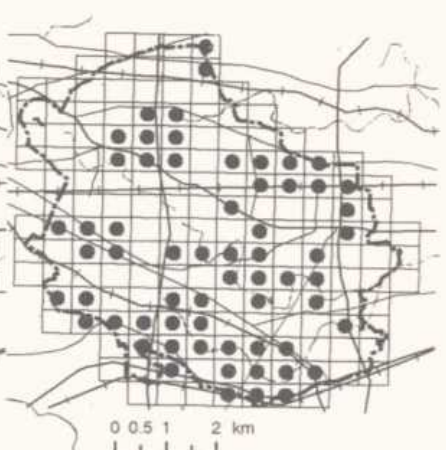
ノハラアザミ



■ 第1回調査



■ 第2回調査

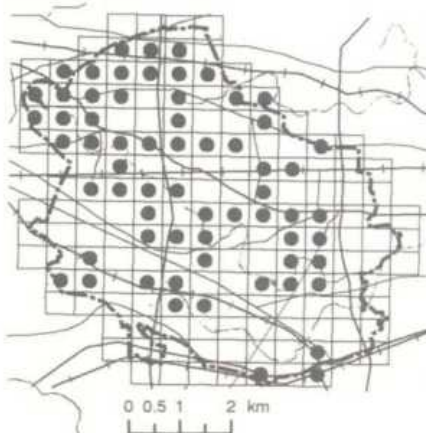
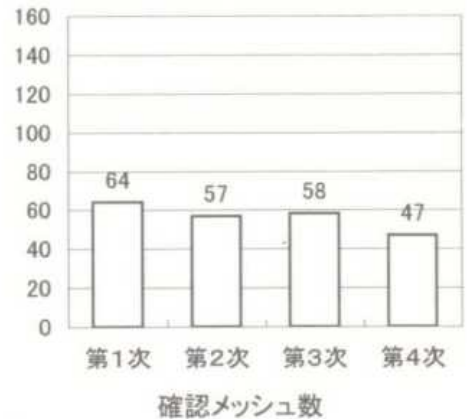
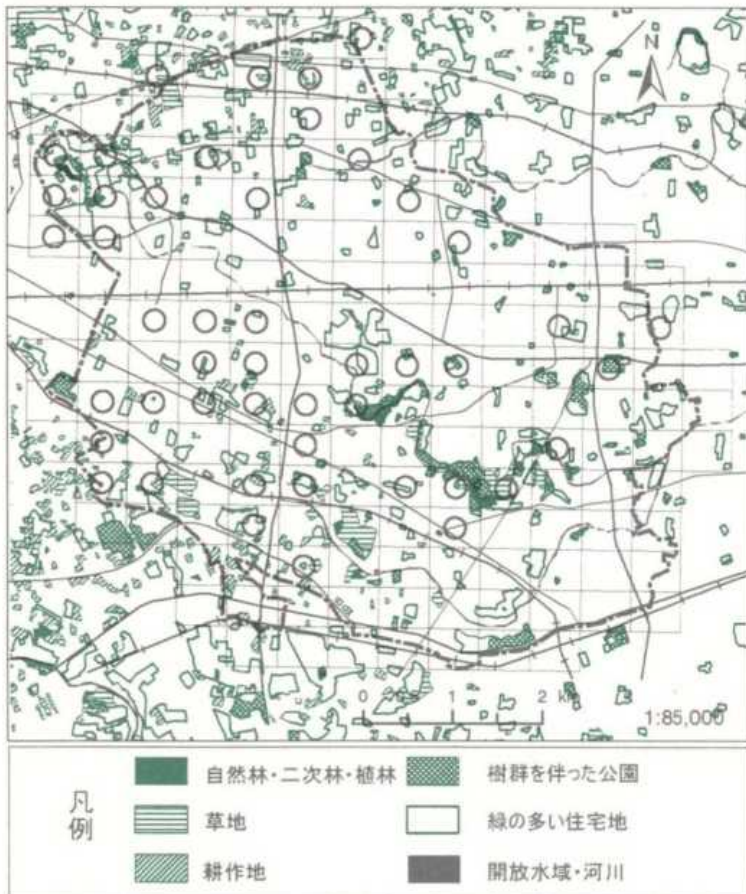


■ 第3回調査

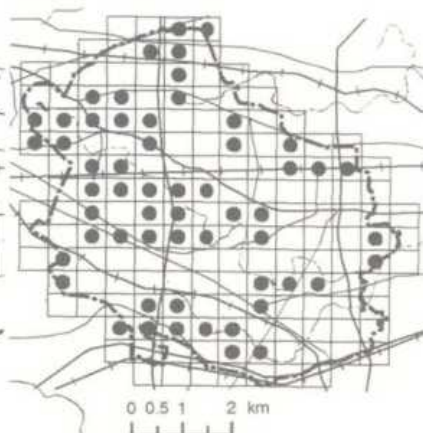
カントウタンポポ

日当たりのよい草地にみられる在来のタンポポです。土地がかくらんされると減少し、次に示す外来種であるセイヨウタンポポに置き換わってしまいます。市街化により減少傾向にある種類といえます。

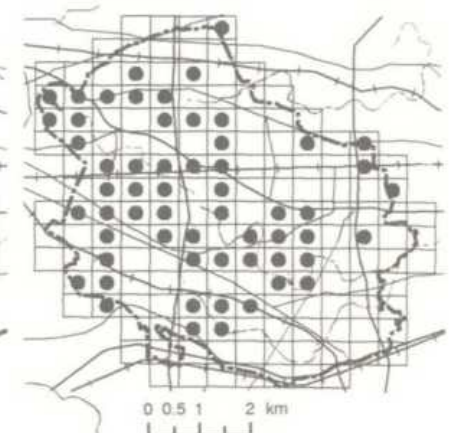
第1回調査からわずかですが分布が減少する傾向にあります。今回確認された場所は緑の多いところと重なる傾向にあります。



■第1回調査



■第2回調査

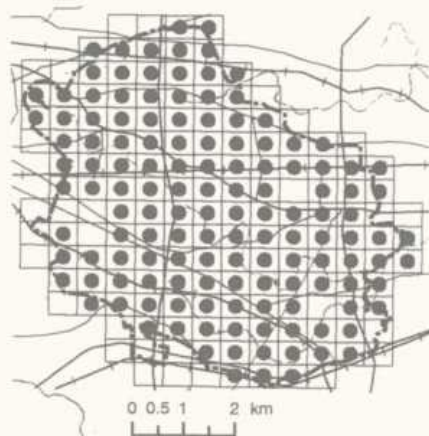
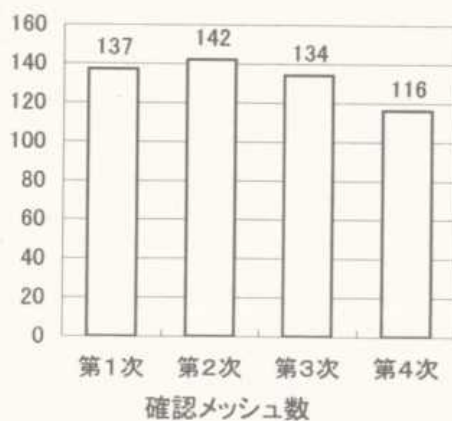
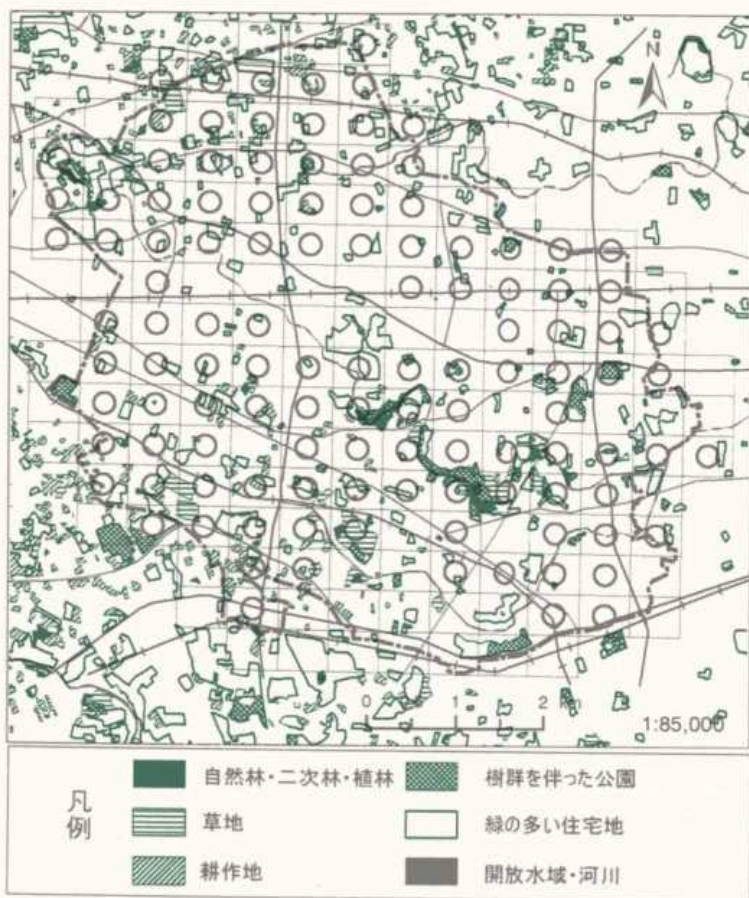


■第3回調査

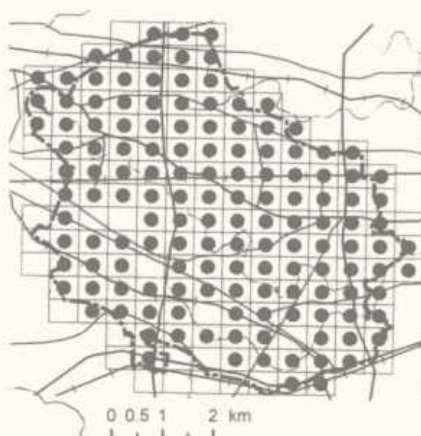
セイヨウタンポポ

日当たりのよい道ばたや空き地など、土地がかくらんされた場所にいち早く侵入します。花も大きく目立つヨーロッパ原産の帰化植物です。

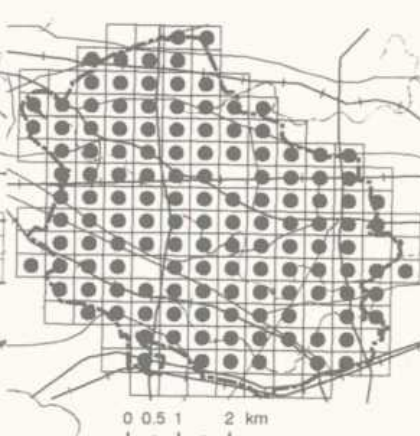
区内のほぼ全域に分布しています。第4回の調査では今までの調査に比べて分布がやや減少していますが、今後も減少するのか注目されます。



■第1回調査



■第2回調査



■第3回調査

3 動物

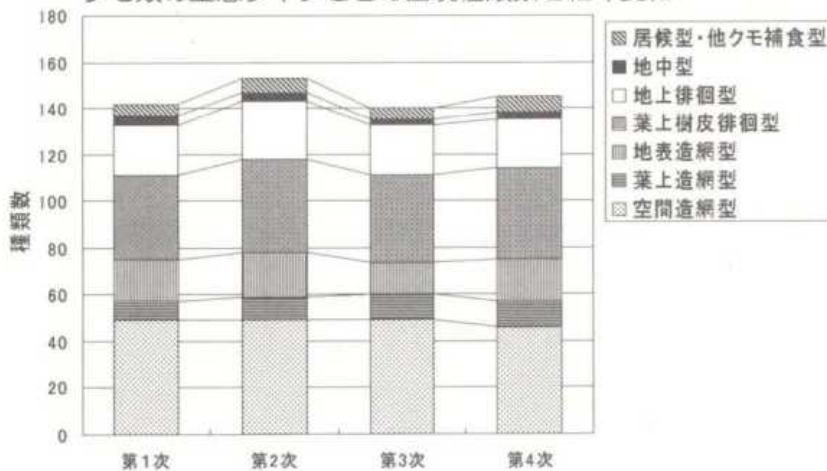
(1) クモ類

今回の調査で確認されたクモ類は27科152種類であり、過去の調査に比べて種類数は変化がみられません。これまでの調査で合計30科199種類が確認されています。クモ類は、昆虫類を餌として食物連鎖の中間に位置し、比較的小規模な環境でも餌さえ供給されれば生息が可能です。このため、区内の都市公園や屋敷林及び社寺林などをはじめとして多種類のクモが生息しています。

クモ類は、造網型と徘徊型に大きく区分されます。造網型は空間造網、葉上型造網、地表型造網の3タイプに、徘徊型は地上樹皮徘徊、地上徘徊、地中、居候・他クモ捕食の4タイプに区分されます。これらの中で、空間造網型と葉上樹皮徘徊型の割合が多く、割合の経年変化はみられません。

これらの種類の内、環境省のレッドデータブックに掲載されているクモ類やそれ以外に区内で貴重あるいは希少な種類、山地性の種類、豊かな森林に生息する種類、杉並区で減少しつつある種類などの注目種は、今回は8科11種類確認されています。これらの注目種は前回までの調査時の確認種に比べて増減はみられません。

クモ類の生息タイプごとの出現種類数と経年変化



注目種

科	種類名	国 ^{※1}	区 ^{※2}	調査年次			
				1次	2次	3次	4次
カネコトタテグモ	カネコトタテグモ	NT		●	●		●
トタテグモ	キシノウエトタテグモ	NT		●	●	●	●
ジグモ	ワスレナグモ	NT		●	●	●	●
ウズグモ	マネキグモ		4	●	●	●	●
ヒメグモ	オナガグモ		3・4		●	●	
サラグモ	コデーニツサラグモ		3・4	●	●	●	●
	ユノハマサラグモ		1・3	●		●	
コガネグモ	キザハシオニグモ		2・4	●	●	●	●
	ナガコガネグモ		3・4	●	●		●
	コガタコガネグモ		3・4		●	●	●
カニグモ	コハナグモ		4	●	●	●	●
	アマギエビスグモ		2・4	●	●	●	●
ハエトリグモ	メスジロハエトリ		4	●	●	●	●

※1環境庁レッドデータ

NT: 準絶滅危惧

※2杉並区独自の注目種(国や都のレッドデータ種以外)の選定基準

1: 貴重種、希少種

2: 山地性種

3: 豊かな森林に生息する種類

4: 杉並区で減少しつつある種類

■区内の分布と生息数の増減

クモ類の中でも、生息状況に変化が見られます。キシノウエトタテグモは地中に生息し、入口をふたでふさいでいるクモで、民家の庭でも生息できる種類です。これまでの調査で半数以上の地点で継続的に生息が確認されています。これに対して、コガタコガネグモは空間造網型のクモで、樹林に生息する種類であり、区内ではこれまでの調査で生息確認地点が減少しています。

また、同じ地点でクモ類の生息数を確認した調査では、第1次の調査と今回の第4次調査を比較すると、すべての地点で生息数が著しく減少しており、クモ類の生息環境が悪化していることがうかがえます。今後は種類数の減少も予測されます。

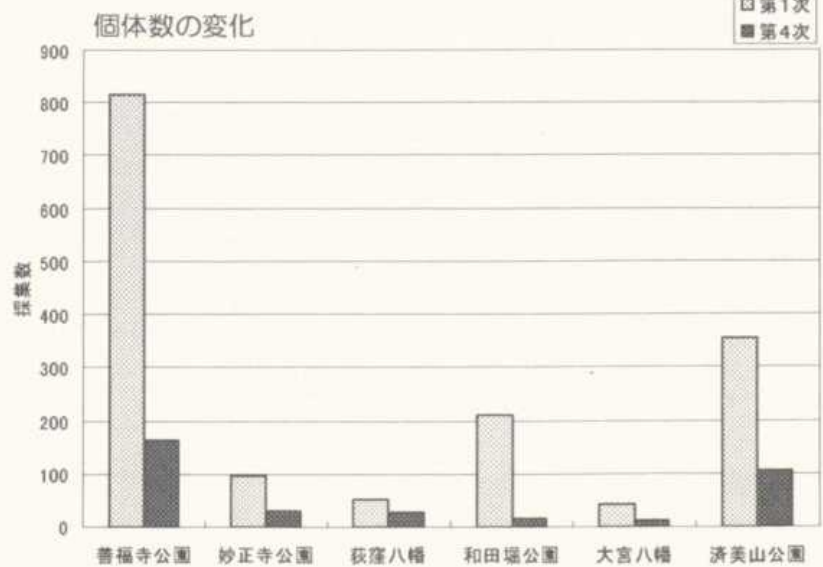
キシノウエトタテグモの分布の変化



コガタコガネグモの分布の変化



記号	区分	出現パターン			
		1次	2次	3次	4次
⊙	今回初めて出現している				●
●	今回出現し、過去にも出現している	●	●	●	●
▲	過去に記録がある	●	●	●	
✦	近年の記録がない	●	●		



※各調査地で、ほぼ同じ数の葉を付けた枝を選び、その枝にいるクモを全てたたき落として集め数を数えた（ビーティング調査または叩き網法という）。

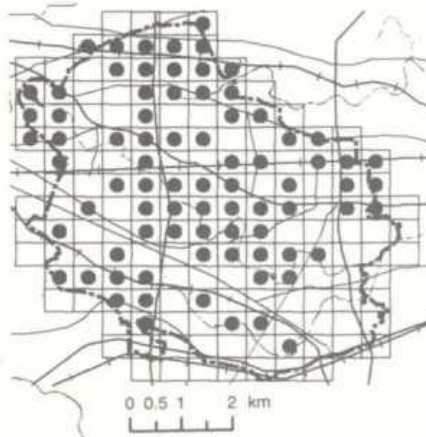
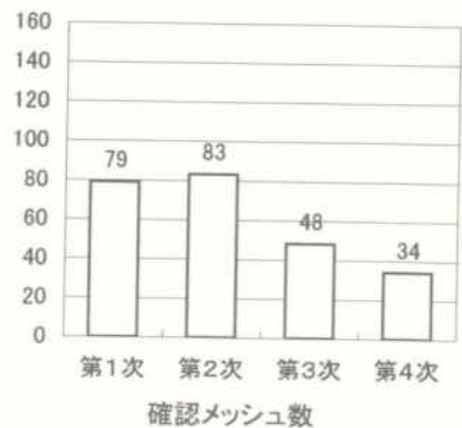
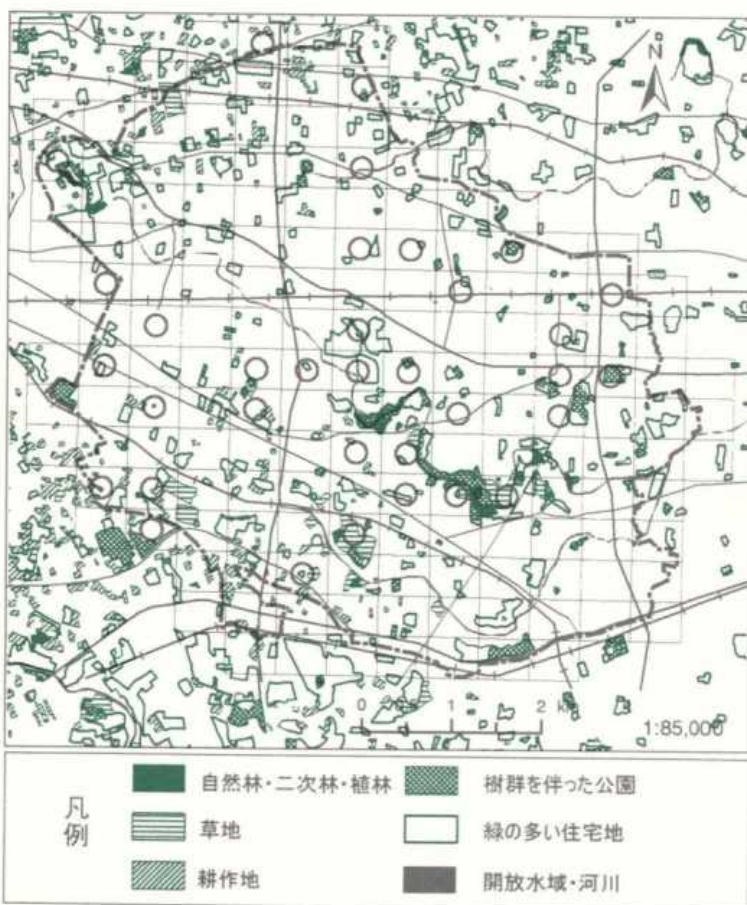
■主なクモの生息状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

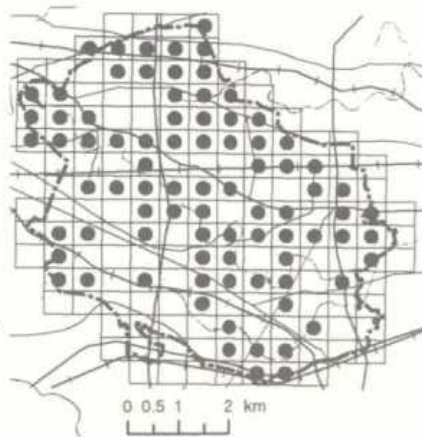
ジョロウグモ

秋になると胴体に黄色と赤が目立つ大型のクモです。公園の樹木や庭木、生垣の間などに大きな円い網を張り昼も夜も網の真ん中にいます。

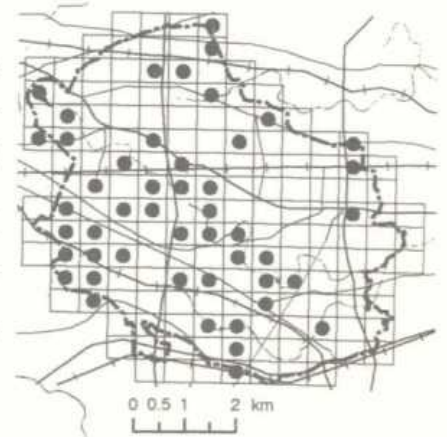
第1回や第2回の調査では区内の多くの場所で確認されましたが、それ以降徐々に減少し、今回の調査では最も多い時点の分布の半分以上に減少しています。今回確認された場所は、みどりの多いところと部分的には重なっていますが、そうでないところでも確認されているようです。



■第1回調査



■第2回調査

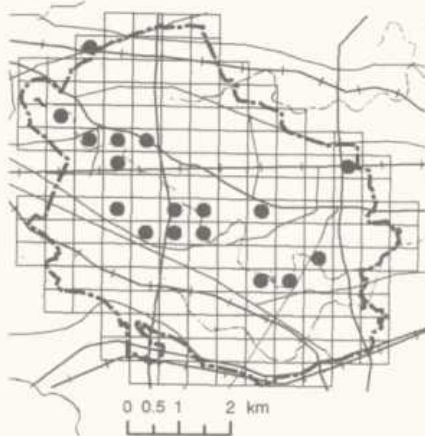
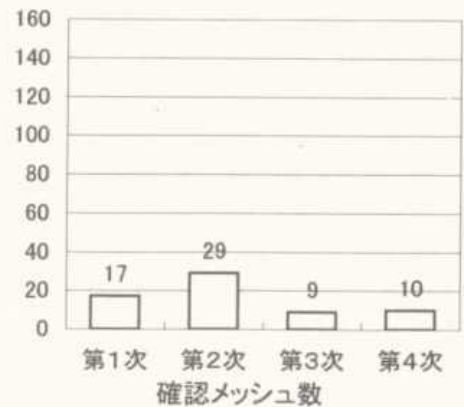
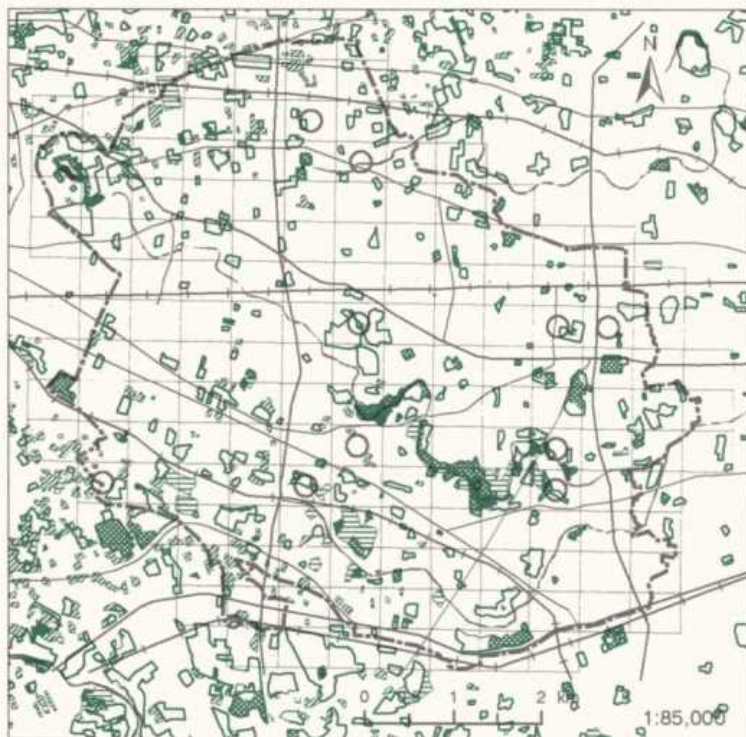


■第3回調査

オニグモ

庭木の多い住宅地などにみられる黒っぽい色をした大型のクモです。夜行性のため昼間は樹木の葉の陰や軒下などに隠れていますが、夕方になると丸い大きな網を張ります。照明に集まってくるガなどの昆虫をとらえているのがよくみられます。

ジョロウグモより分布は限られ、第2回調査から第3回調査にかけて急激に分布が減少し、第4回調査でも第3回調査とほぼ同様の分布となっています。特にみどりの多い場所に分布する傾向はみられませんでした。



■ 第1回調査



■ 第2回調査



■ 第3回調査

(2) 昆虫類

今回の調査で確認された昆虫類は 138 科 414 種類です。これまでの調査では合計 187 科 859 種類が確認されています。昆虫類は、市街化が進む中で生息できなくなった種類も多いですが、ちょっとした様々な環境に適応し、孤立した環境下でも生息が可能な種類もあり、多様な昆虫が見られます。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブックに掲載されている昆虫類やそれ以外に区内で貴重あるいは希少な種類、局所的に生息している種類、分布限界となっている種類、生息数が減少している種類などの注目種は、今回 17 科 34 種類確認されています。これらは、絶滅が危惧される種類などで区内で保護する必要があると考えられる種類といえます。確認された注目種の種類数は前回までに比べて大きく増加しています。これはトンボ類の注目種が増えたためです。また、クマゼミは、南方系の種で今までも記録がありましたが、飛来種といわれていました。しかし地球温暖化の影響か、今回初めてぬけがらが見つかり、繁殖していることが確認されました。

昆虫類の出現種類数

目名	第1次調査		第2次調査		第3次調査		第4次調査		総合	
	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数
カゲロウ目	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
トンボ目	8	18	6	18	6	19	9	34	9	37
ゴキブリ目	2	3	2	4	2	3	2	4	2	5
カマキリ目	1	4	1	3	1	3	1	4	1	5
シロアリ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
バッタ目	10	23	12	24	11	21	10	20	13	36
ナナフシ目	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2
ハサミムシ目	3	3	2	3	1	1	2	4	3	5
チャタテムシ目	1	1	1	1	0	0	1	1	1	2
シラミ目	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
カメムシ目/セミ亜目	18	32	11	44	10	25	12	24	20	63
カメムシ目/カメムシ亜目	12	24	13	27	12	27	16	30	19	58
アミメカゲロウ目	1	2	2	2	3	5	2	4	3	7
コウチュウ目	28	121	25	118	23	94(3)	20	99	34	228
ハチ目	7	25	12	42	12(1)	43(3)	15	60	16	76
ノミ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ハエ目	16	35	14	31	16(1)	33(1)	14	32	24	64
トビケラ目	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
チョウ目/ガ類	10	28	17	120	24	189(5)	21	54	27	217
チョウ目/チョウ類	8	37	8	37	9	42	8	39	9	49
合計	128	359	130	479	134(2)	509(12)	138	414	187	859

※種までの同定がされていないものについては、同一の調査年次に同一の分類群に属する種が確認されていない場合は計数した。

第3次調査における括弧内の数字は、計数された科・種のうち4次で新たに追加された科・種数の内訳を示す。

注目種

目	科	種類名	国 ^{※1}	都 ^{※2}	区 ^{※3}	調査年次				
						1次	2次	3次	4次	
トンボ	イトトンボ	オオイトトンボ		C					●	
		キイトトンボ		B					●	
		セスジイトトンボ		C		●	●	●	●	
	モノサシトンボ	アオイトトンボ		B					●	
		オオアオイトトンボ		B					●	
		グンバイトンボ	VU						●	
	カワトンボ	ハグロトンボ		A					●	
	サナエトンボ	ウチワヤンマ		C		●	●		●	
	オニヤンマ	オニヤンマ		B		●		●	●	
	ヤンマ	カトリヤンマ		A		●				
		クロスジギンヤンマ		C		●	●	●	●	
		マルタンヤンマ		B			●		●	
		ヤブヤンマ		B					●	
	エゾトンボ	オオヤマトンボ		C		●	●	●	●	
		コヤマトンボ		B					●	
	トンボ	コノシメトンボ		C				●	●	
		ショウジョウトンボ		C			●	●	●	
		チョウトンボ		C			●			
		ナツアカネ		C			●	●	●	
		ネキトンボ		C					●	
ハラビロトンボ			B					●		
ミヤマアカネ			B					●		
リスアカネ			B					●		
バッタ	コロギス	ハネナシコロギス		C				●		
	バッタ	ショウリョウバッタモドキ		C				●		
セミ	セミ	クマゼミ		C			●	●	●	
		ヒグラシ		C		●	●	●	●	
カメムシ	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ	NT				●	●		
コウチュウ	コガネムシ	ヒメラハナムグリ		B				●		
チョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ			2		●	●	●	
		モンキアゲハ			1		●	●	●	
	シジミチョウ	アカシジミ			D				●	
		ミスイロオナガシジミ			B		●	●	●	
	テングチョウ	クモガタヒョウモン			D				●	
		テングチョウ			A		●	●	●	●
		ヒオドシチョウ			A		●		●	
	タテハチョウ	オオムラサキ			D		●			
	ジャノメチョウ	クロノマチョウ				1			●	
サトキマダラヒカゲ				A		●	●	●	●	
6目	18科	37種類	2	32	7	12	15	14	34	

※1 環境省レッドデータ

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

※2 東京都レッドデータ（区部におけるランク）

A：絶滅の危機に脅している種類 B：絶滅の危機が増大している種類

C：生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種類 D：野生で絶滅と判断される種類

※3 杉並区独自の注目種（国や都のレッドデータ種以外）の選定基準

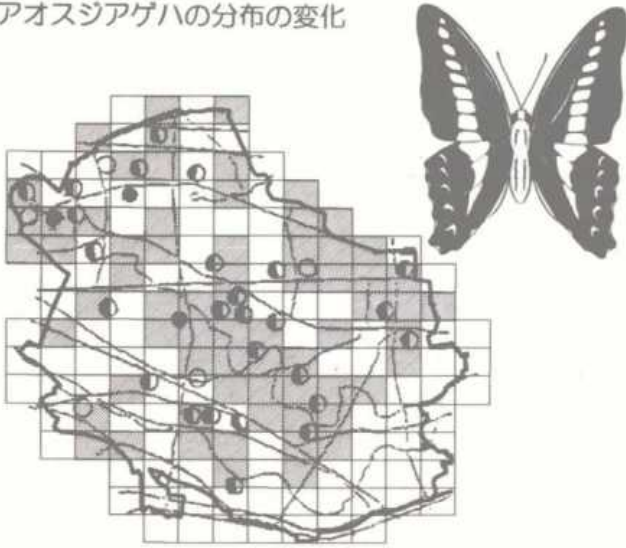
1：分布限界 2：減少している

■チョウ類の区内の分布とその変化

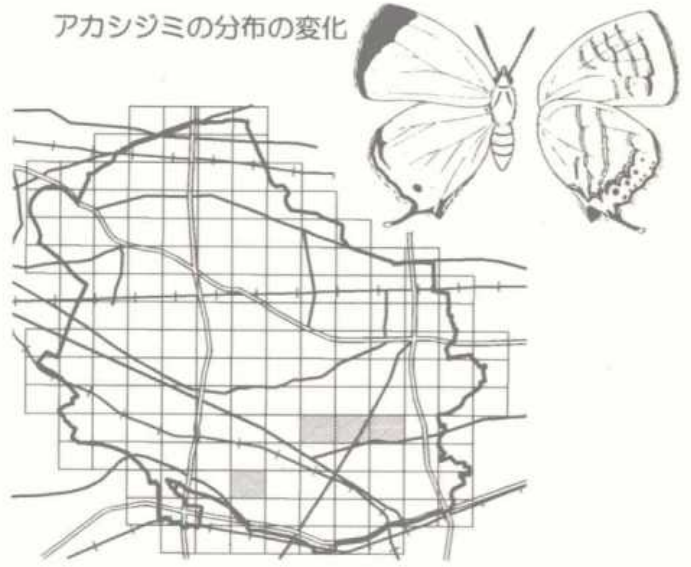
チョウ類では、分布地が増えたもの、減ったもの、増減がないものなど様々みられました。

分布地が増えた代表種はアオスジアゲハで、植栽地でも生息が可能であり、街路樹などの植栽に伴って分布を広げています。また、アカシジミは雑木林に生息する種であり、今回の調査で4つのメッシュで確認されています。分布地が減った代表種はウラナミシジミで、草地や畑が生息地で、これらの環境の減少が原因となっていることが考えられます。分布地に増減がない種類はナミアゲハで、比較的広く生息しそれが維持されています。

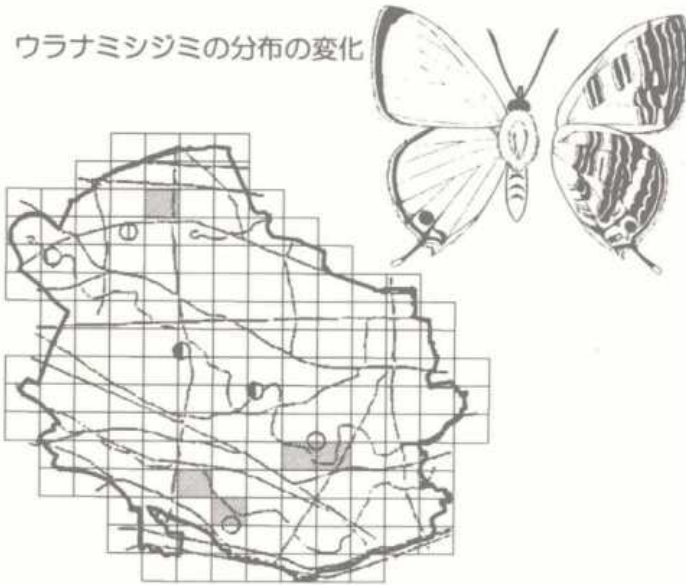
アオスジアゲハの分布の変化



アカシジミの分布の変化



ウラナミシジミの分布の変化



ナミアゲハの分布の変化



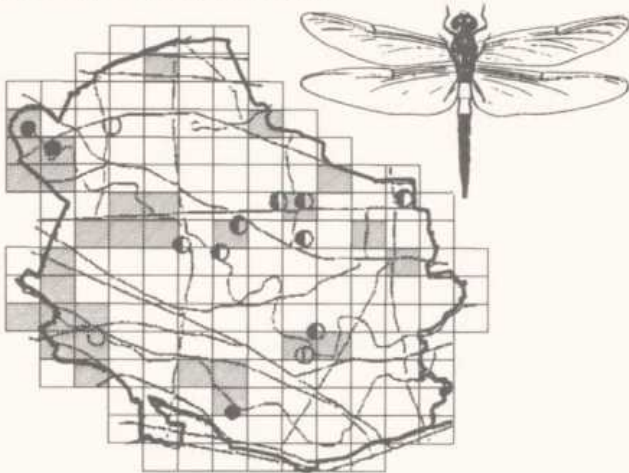
記号	出現パターン			
	1次	2次	3次	4次
○	●			
①	●	●		
②	●		●	
③	●	●	●	
■				●

■トンボ類の区内の分布とその変化

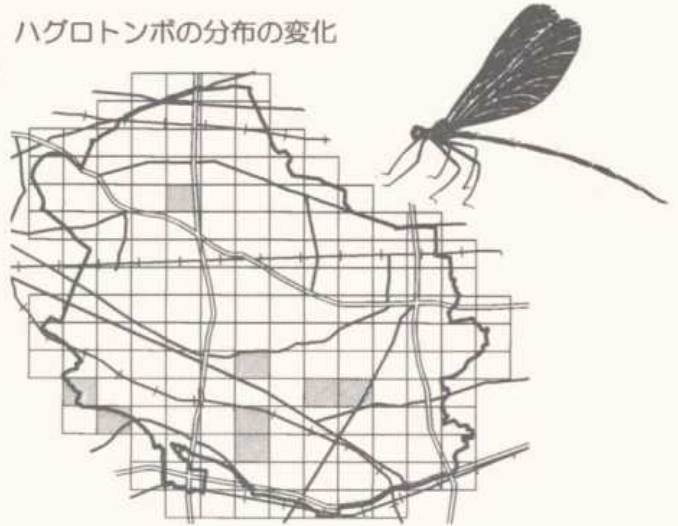
トンボ類では、局所的に分布する種類で分布地が増えた種類が多く、この調査で今回初めて確認された種類も多くみられました。分布地が増えた代表種はコシアキトンボやハグロトンボです。コシアキトンボは、あまり水質が良くなくても木陰があるような池に生息しています。ハグロトンボは沈水植物などのある河川に生息しており、多摩川から玉川上水などを伝って分布を広げていると考えられます。一方、分布地が減った代表的な種類はギンヤンマです。湿性植物が生える池などに生息するため、このような環境が減ったことが原因となっていると考えられます。また、アキアカネは1~4回調査をとおして分布地が広い状態が維持されていますが、これはアキアカネが移動能力が高いためであると考えられます。

トンボ類は全体として増加傾向にあります。この理由としては、生き物に配慮した河川管理の取り組みとして、河川内の土砂を取り除かなくなったこと、中州に抽水植物が繁茂したり土手の草を刈らなくなったこと、抽水植物を植栽したこと、また、学校ビオトープの普及で池などが増えたことなど、トンボ類にとっての水辺環境が多様化したことがあげられます。

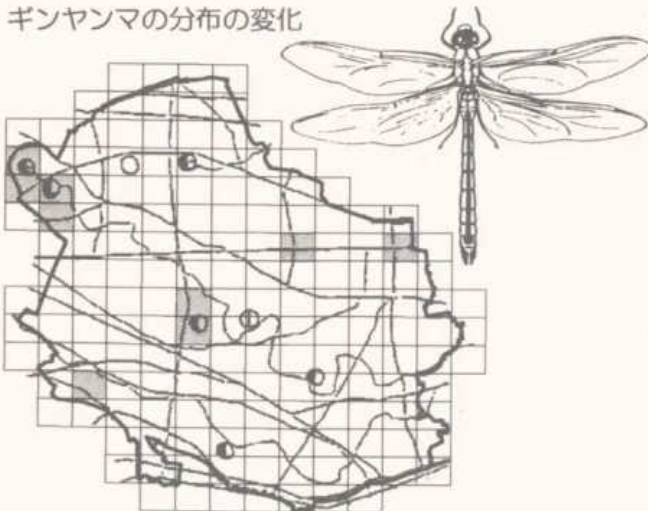
コシアキトンボの分布の変化



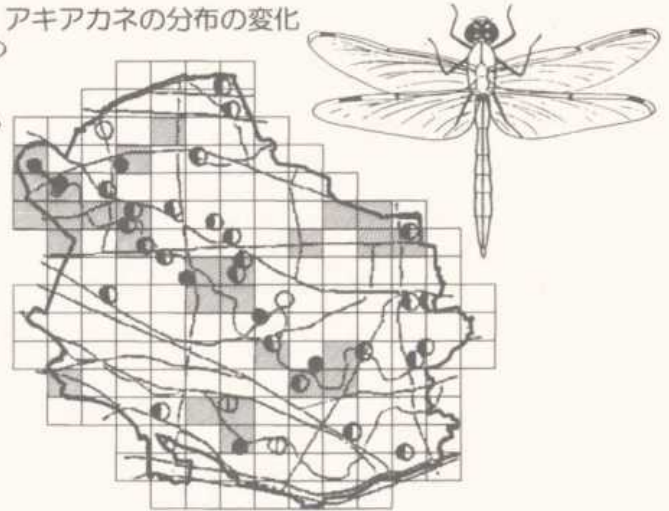
ハグロトンボの分布の変化



ギンヤンマの分布の変化



アキアカネの分布の変化



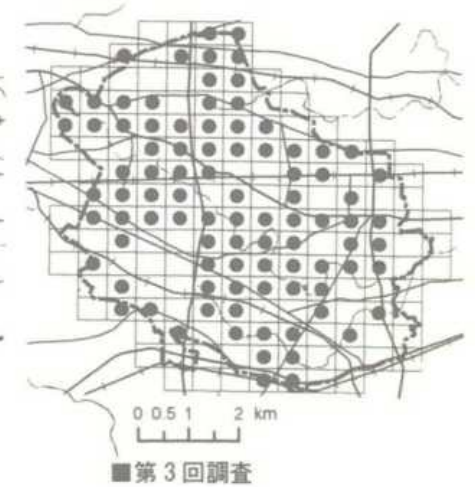
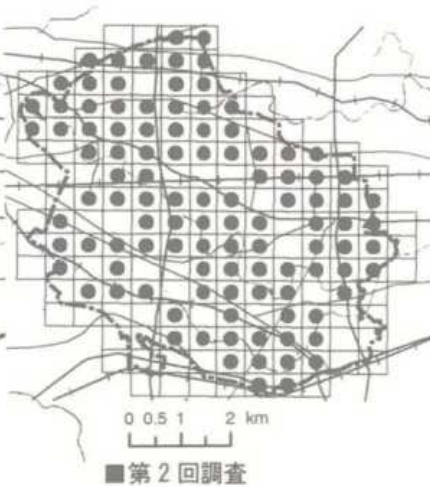
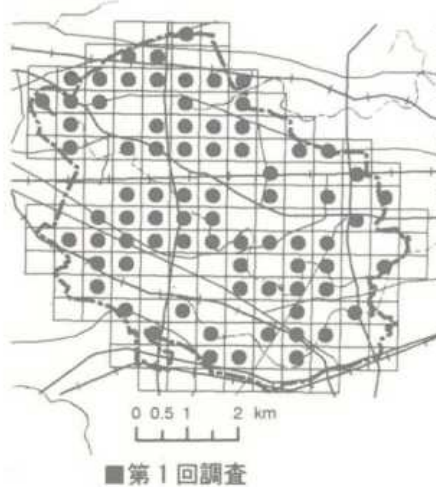
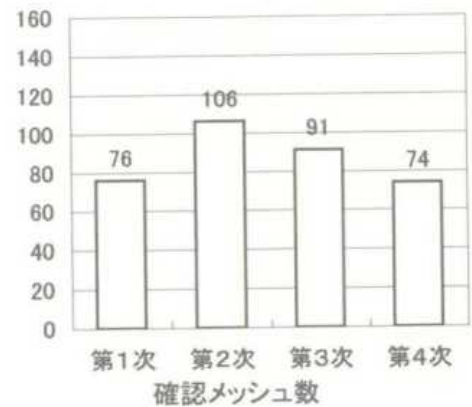
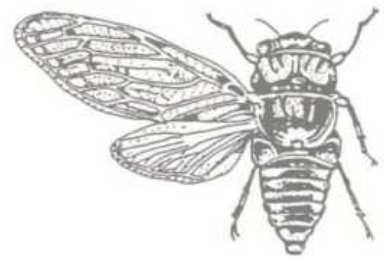
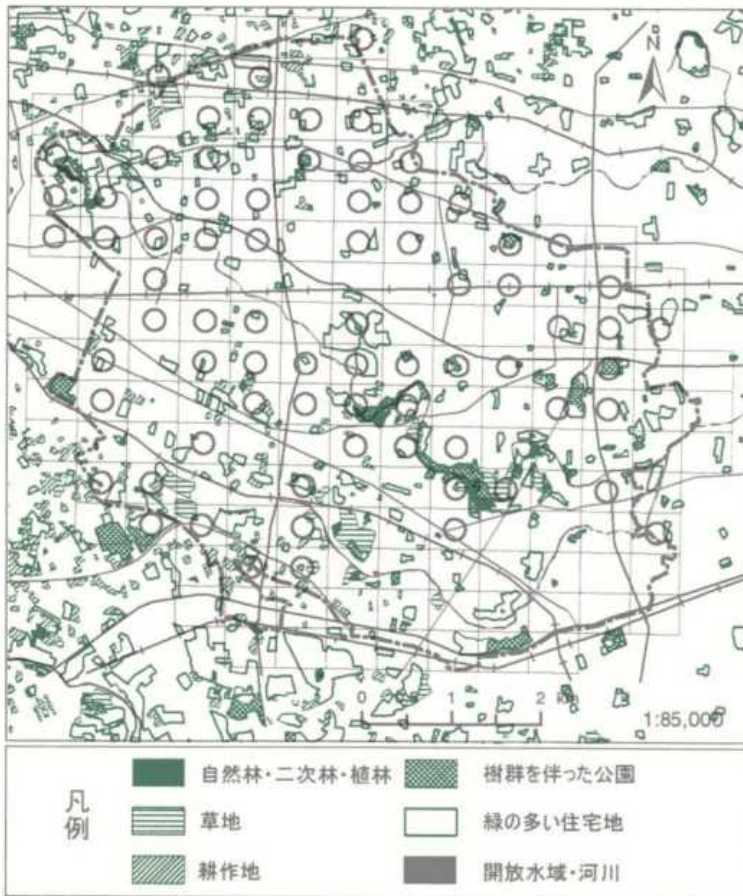
■主な昆虫の生息状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

アブラゼミ

樹木のあるところならどこでもみられる区内の代表的なセミです。羽が茶色で、夏に「ジージリジリ」と鳴いている姿をみかけますが、成虫になるには6年もかかります。

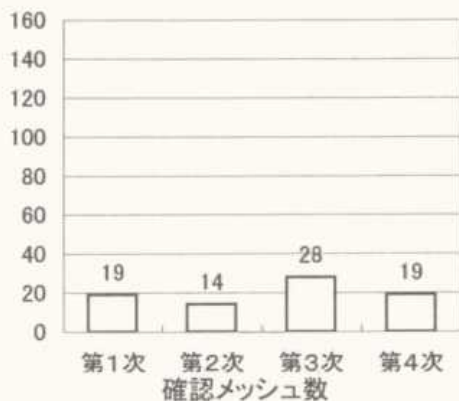
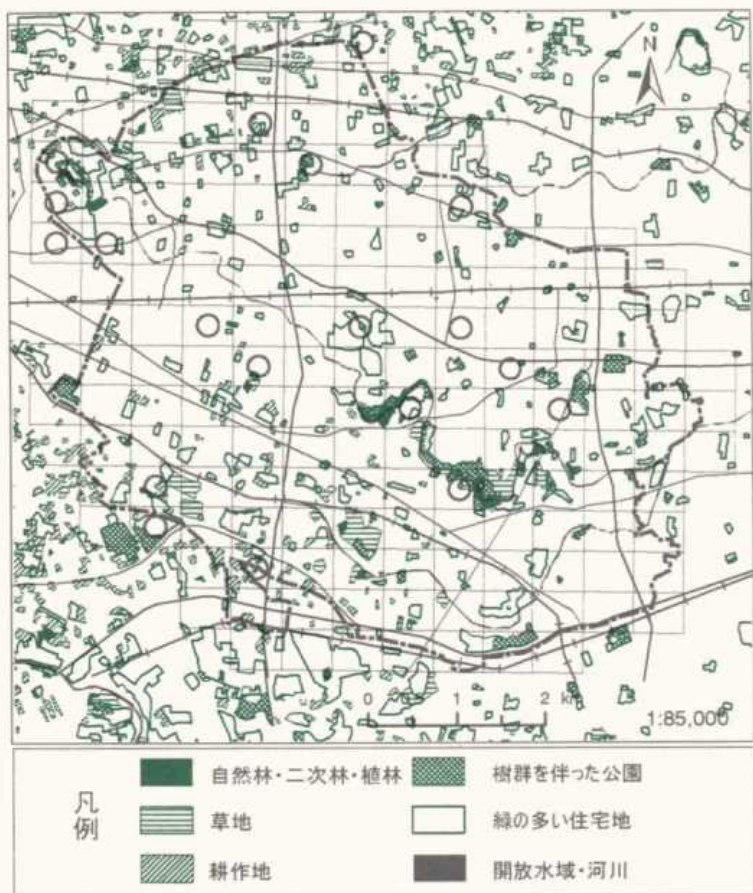
分布状況は特に変化がありませんでした。今回確認された場所は、緑が多いか中程度の場所と重なる傾向にあり、みどりが少ない場所では分布していない様子がみられます。



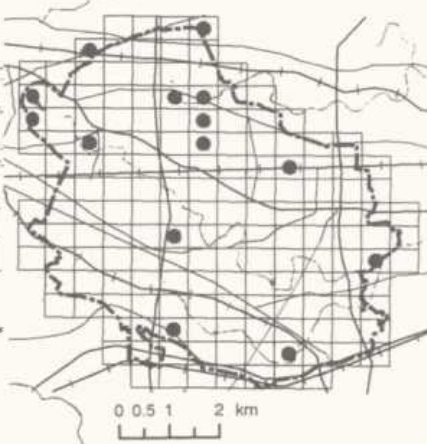
ヒグラシ

日暮れ間近になると「カナカナカナ」と鳴きだし、夜になることを知らせてくれるセミです。実際には夕方だけでなく明け方にも鳴きます。

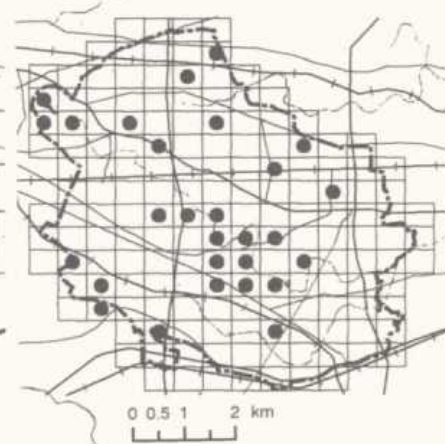
第1回から分布が少ないセミで、分布状況に変化はみられません。今回確認された場所は、みどりが多い場所と重なる傾向がみられます。



■第1回調査



■第2回調査



■第3回調査

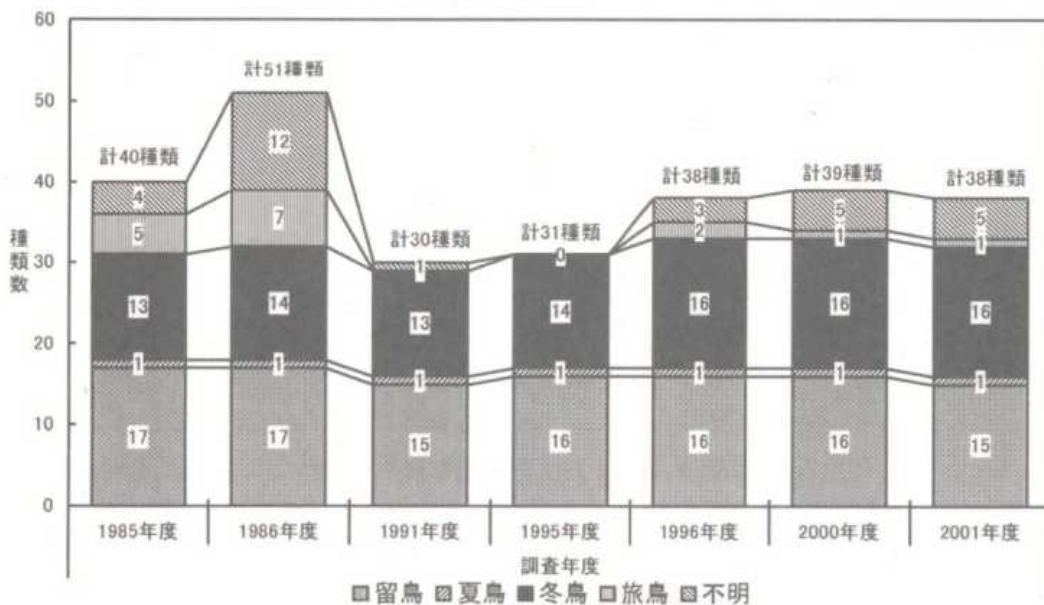
(3) 鳥類

今回の調査で確認された鳥類は 23 科 40 種類であり、第 1 次調査からは減少していますが、それ以降は変化がみられません。これまでの調査で合計 26 科 61 種類が確認されています。杉並区は市街地の中に孤立した樹林地や水辺環境があり、それらの環境に生息する多様な鳥類が生息しています。区内のほとんどは市街地であり、そのような場所では種類数も少なく、生息種はスズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラなど区内全域に生息し個体数も比較的多い特定の種類に限られます。また、善福寺公園は他の場所に比べ最も種類数及び個体数が多く、樹林から水辺環境がまとまって残っており、多様な鳥類が見られることを示しています。

渡り区分では、留鳥と冬鳥の割合が多く、カモ類やサギ類などの冬鳥の種類は増加傾向にあり、夏鳥は第 1 次調査で 7 種類確認されて以来 1～2 種類と少なくなっています。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブックに掲載されている鳥類やそれ以外に 23 区内で比較的多い種類などの注目種は、今回は 5 科 6 種類確認されています。

渡り区分別出現種類数



注目種

種類名	国 ^{※1}	都 ^{※2}	区 ^{※3}	1985年度	1986年度	1991年度	1995年度	1996年度	2000年度	2001年度
ダイサギ		C			●			●	●	●
チュウサギ	NT	C							●	
オシドリ		C						●	●	●
ツミ		C			●					
チョウゲンボウ		C			●					●
バン			●	●	●	●	●	●	●	●
ウグイス		C		●	●	●	●	●	●	●
合計	1	6		2	3	1	1	3	4	4

※1 環境省レッドデータ

NT: 準絶滅危惧

※2 東京都レッドデータ (区部ランク)

C: 希少種

※3 杉並区独自の注目種 (国や都のレッドデータ種以外) の選定基準

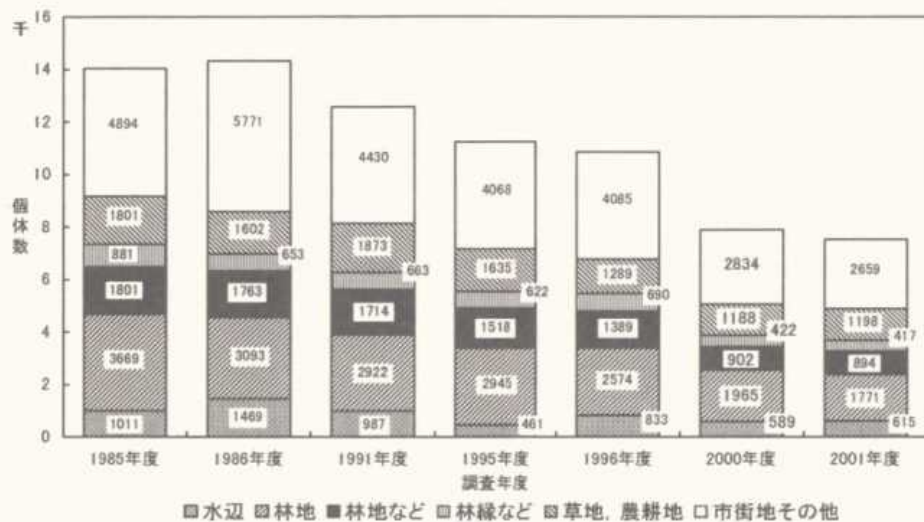
23 区では比較的多い

■生息数の増減

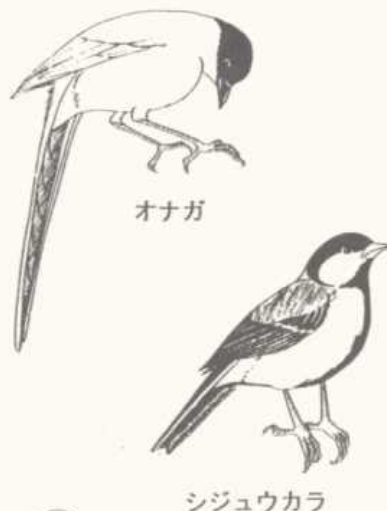
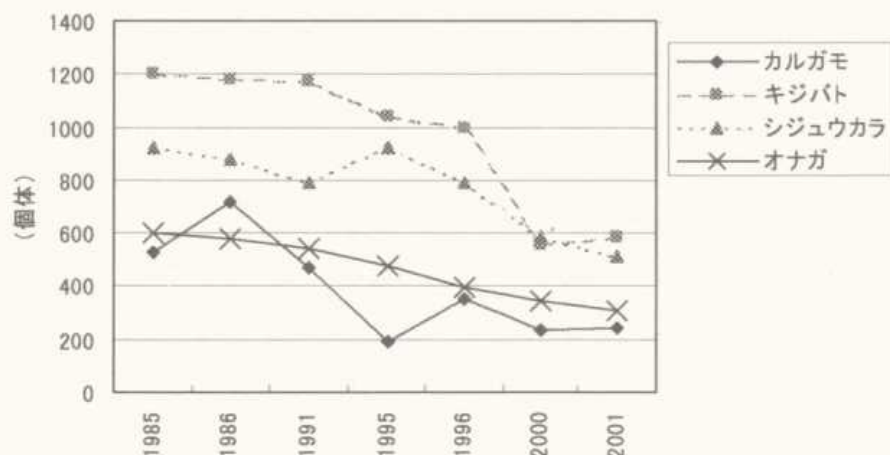
調査時に出現した鳥の総個体数を集計すると、第1次から徐々に減少していることが分かります。これは区内で生息できる鳥の数が減っているということで、鳥が生息できる環境が悪化していることを示しています。

個々の種類でみると、カルガモ、キジバト、シジュウカラ、オナガなどをはじめとする多くの種類で個体数が減少しています。それに対して、ツバメやハクセキレイなどはそれほど変化がみられず、コサギ、コゲラ、シロハラなどは個体数が増加しており、これらの生息環境は維持されているといえます。

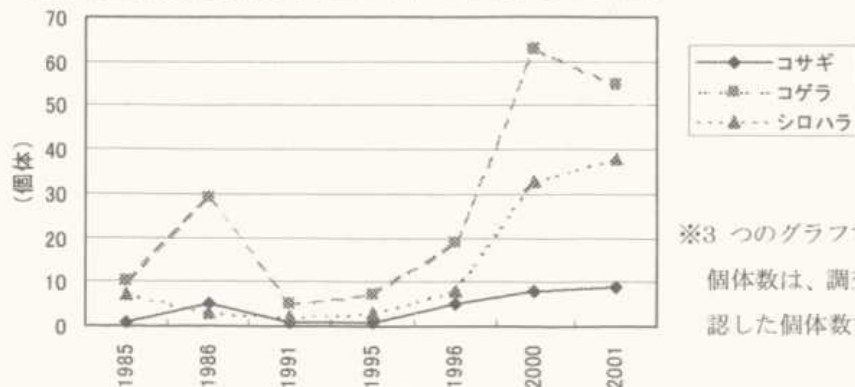
生息環境区別の出現個体数の変化



個体数が減少した鳥類（カルガモ、キジバト、シジュウカラ、オナガ）



個体数が増加した鳥類（コサギ、コゲラ、シロハラ）



※3 つのグラフで示した個体数は、調査時に確認した個体数である。

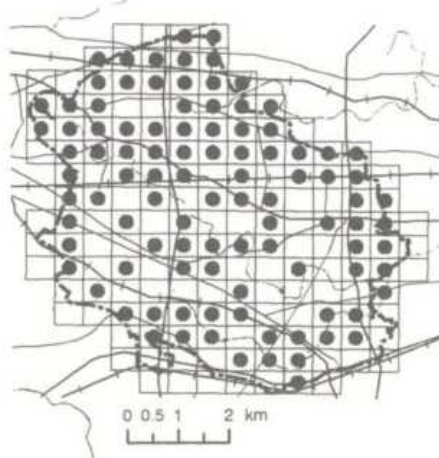
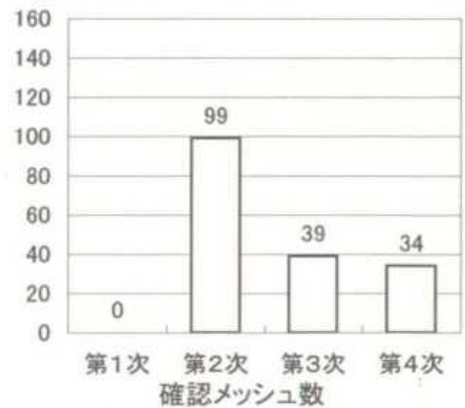
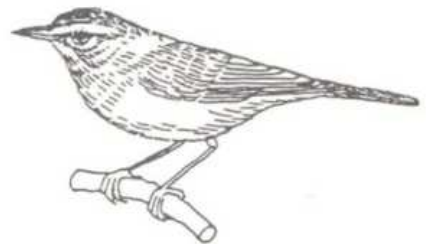
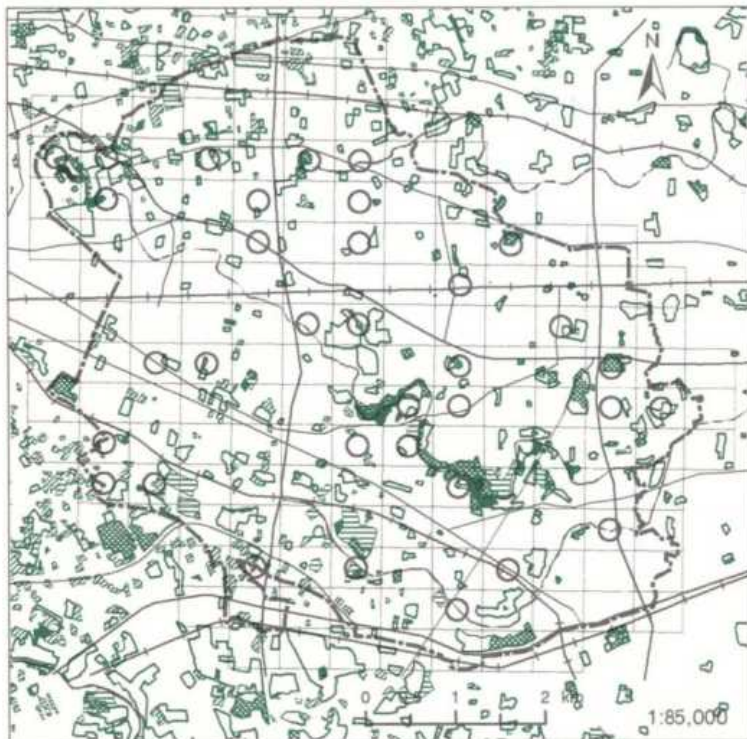
■主な鳥類の生息状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

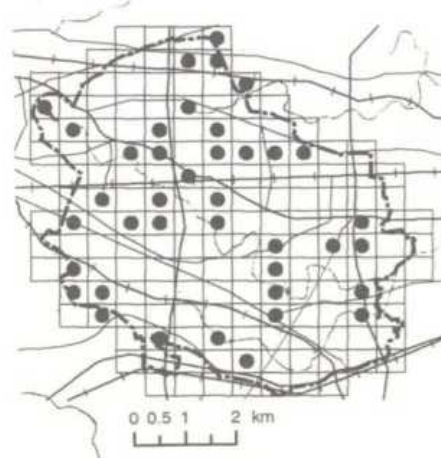
ウグイス

山地から冬を過ぎしに降りてくると考えられるやぶを好む鳥です。

第2回調査時以降徐々に減少し、今回の調査では最も多い時点の分布の1/3程度に減少しています。今回確認された場所は、みどりの多いところと部分的には重なっていますが、そうでない所でも確認されています。ウグイスは、樹林地のヤブのほか、住宅地でも緑の多い場所にはやってくるためでしょう。



■第2回調査

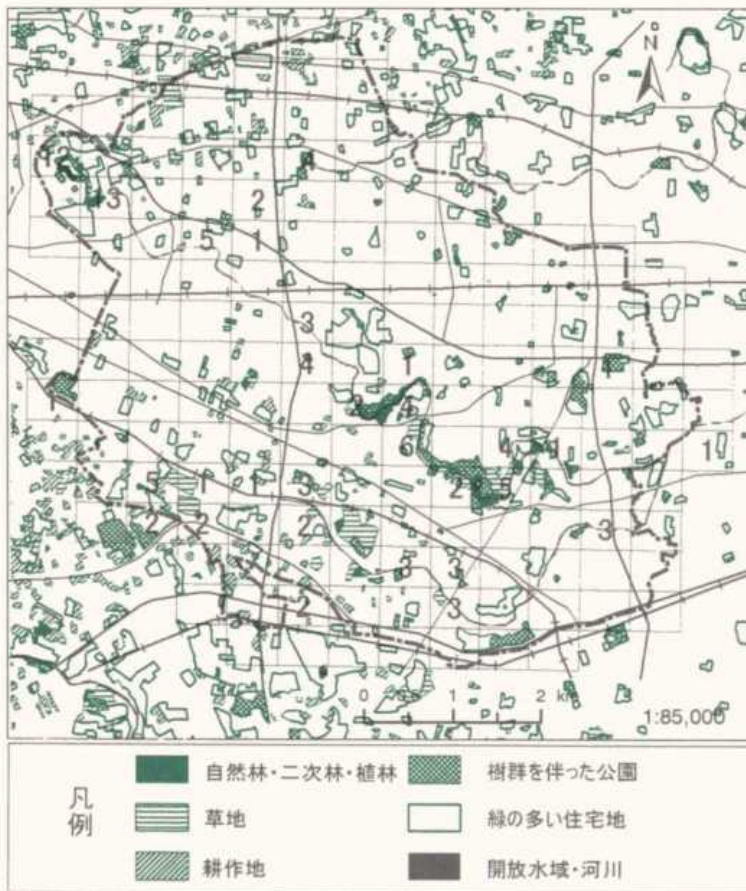


■第3回調査

冬の水鳥

水鳥のアンケート調査は、カモ類、サギ類などの14種類を対象としています。これらの水鳥は区内の池や河川を中心に分布しています。

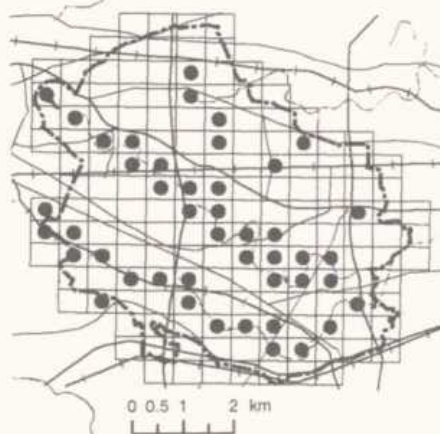
メッシュごとに確認された種類数を下の図に示しました。第3回調査時に比べ分布地が減少し、確認種類数や多くの種類の個体数も減少する傾向にあります。今回確認された場所は、河川沿いや池のある場所と重なっています。善福寺池は区内では他に比べ種類数が断然多い場所になっています。



※メッシュ内の数字は水鳥の確認種類数



オシドリ

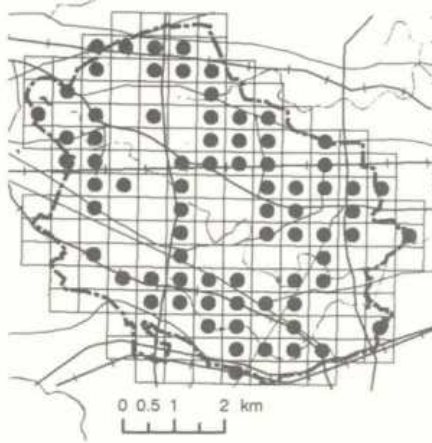
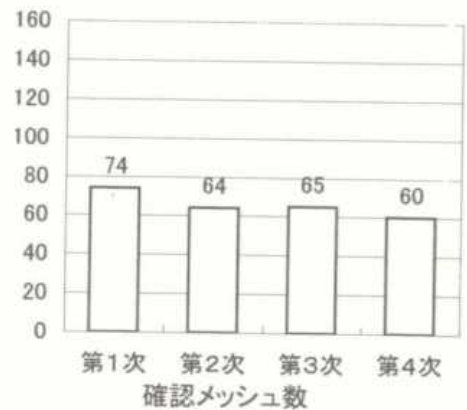
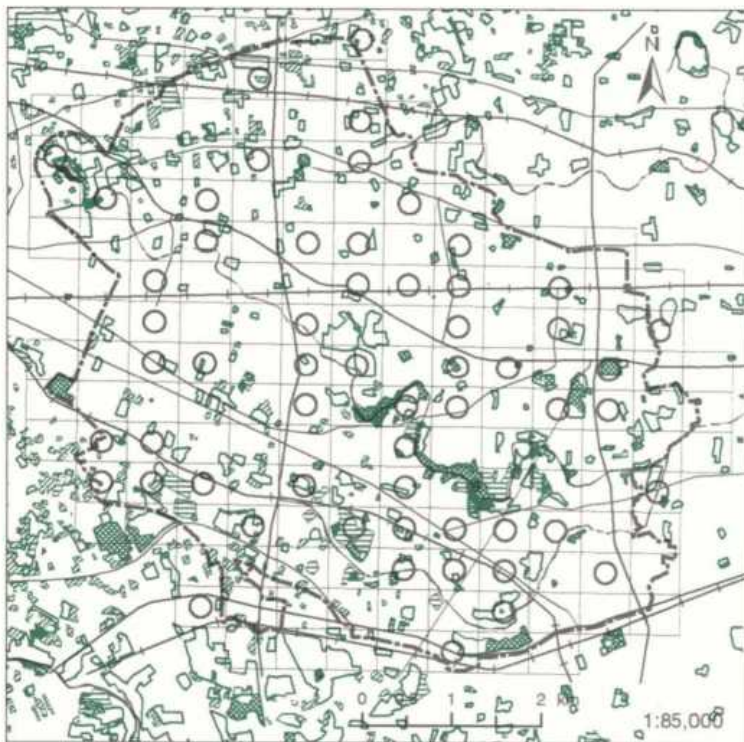


■ 第3回調査

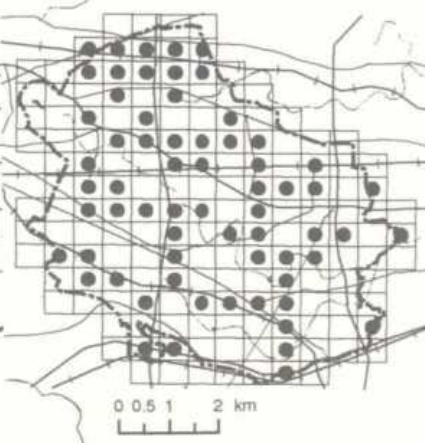
ツバメの巣

杉並の代表的な夏鳥で、家の軒先などに巣をつくる身近な鳥です。

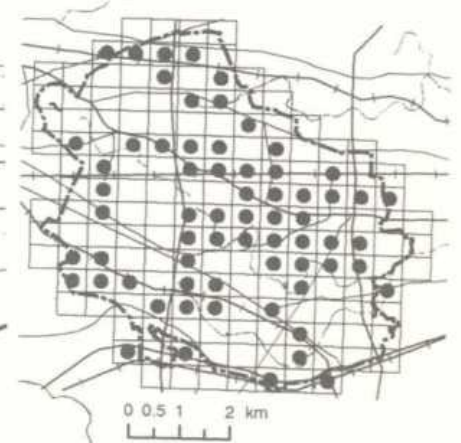
松の木中学の調査で、杉並区のほぼ中央部のツバメの巣は年々減少していることが分かっていますが、アンケート調査でも全体としてはやや減少している傾向がみられます。今回確認された場所を示すメッシュ図を見ると、特にみどりの多いところと重なる傾向はみられませんでした。もともと人の暮らしと共存している鳥なので特に広い樹林が必要というわけではありませんが、みどりが少なくなり過ぎるとすみづらくなるのかも知れません。



■ 第1回調査



■ 第2回調査



■ 第3回調査

餌台にくる鳥

餌台にくる鳥のアンケートで寄せられた回答の中から、餌の種類ごとにどんな鳥がどんな餌を食べているか、事例が多いものを一覧にしました。前回と同様、リンゴ、パンくず、ミカン、ご飯類、柿などを食べていることが確認されました。

餌の種類と鳥の種別採餌例

鳥の種類 餌とするもの	ヒヨドリ	スズメ	キジバト	シジュウカラ	メジロ	ハシブトガラス	ムクドリ	ドバト	ツグミ	オナガ	カワラヒワ	ウグイス	ジョウビタキ	アオジ	ハクセキレイ
リンゴ	●	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	
パンくず	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○		○	○		○
ミカン	●	●	○	○	●	○	●	○		○	○	○	○	○	
ご飯類(米、ご飯等)	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○			○		
柿	●	●	○	○	●	●	○	○		○				○	
ヒマワリ	○	○	○	●	○		○		○		●				
むき粟	○	●	○	○	○		○		○						
肉類(肉・脂肪等)	○	○		●	○	●		○							
麦	○	○	○	○		○									
ハチミツ	○			○	○							○			
キャットフード		○	○	○		○									
クッキー	○	○		○	○										
●:5以上 ○:5未満															

鳥の食性調査

公園の草本や庭木、ベランダの鉢植えなどで鳥についばまれていた植物の観察例から、どんな鳥がどんな植物を食べているかを一覧表にしてみました。これも前回と同様、カキ、マンリョウ、ピラカンサなどを食べていることが確認されました。

植物の種類と鳥の種別採餌例

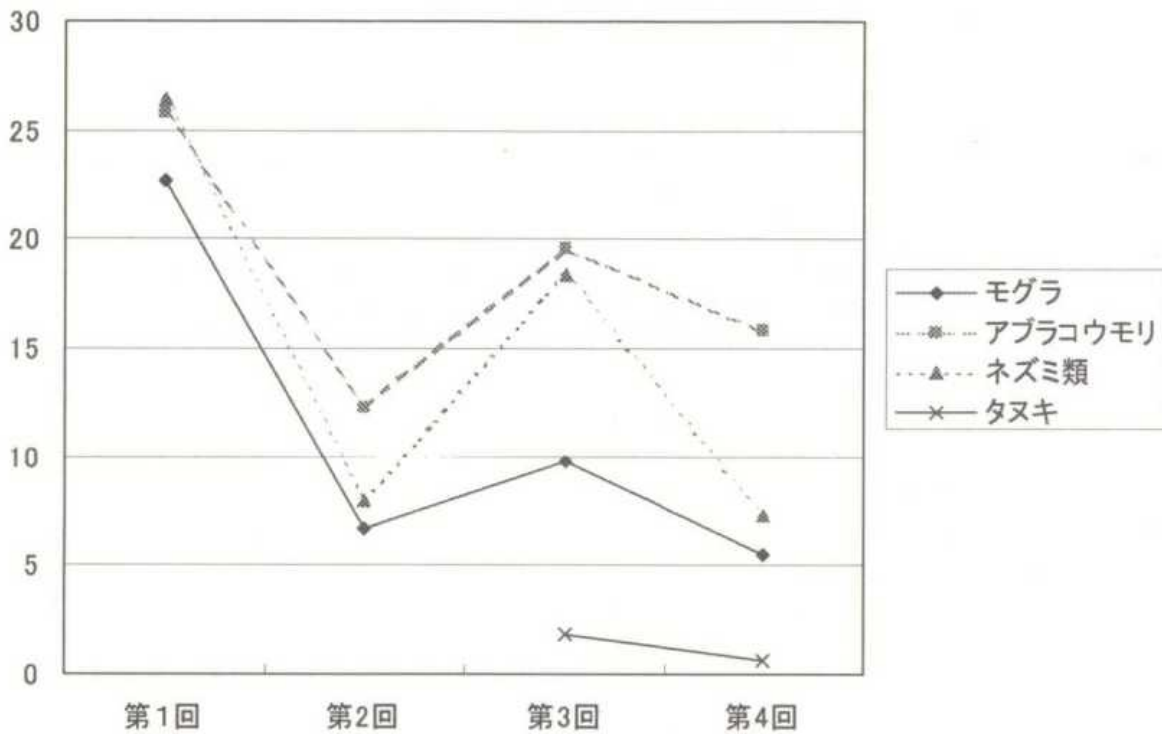
鳥の種類 餌とする植物	ヒヨドリ	キジバト	スズメ	メジロ	ムクドリ	ハシブトガラス	シジュウカラ	オナガ	ツグミ	ジョウビタキ	ドバト	コゲラ
カキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
マンリョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	
ピラカンサ	●	●	●	●	●	○	○	●	○	○	○	
ナンテン	●	○	●	●	●	○	●	●	○	○	○	
ミカン	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	
エノコログサ	○	○	●		○	○	○	○	○		○	
クちなシ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ネズミモチ	●	○	○	○	○		○	○				
センリョウ	●	○	○	○		○		○	○	○		
ムラサキシキブ	●	○	○	○	○		○	○				
キンカン	○		○	○	○	○	○		○			
ウメモドキ	○		○	○		○	○	○				
ツバキ	●			●	○		○	○				
ヘクソカズラ	○	○	○					○				
ムクノキ	○	○			○		○					
カラタチバナ			○		○			○				
●:5以上 ○:5未満												

(4) ほ乳類

アンケート調査で対象としているほ乳類は、モグラ、アブラコウモリ、ネズミ類、タヌキです。このうちタヌキは第3次調査から確認され、定着しつつあることがうかがえます。アブラコウモリやモグラは、前回調査より確認メッシュ数が減少しており、特にモグラは減少傾向が著しく、局所的な分布となっています。移動性が低いため、新たに周辺から供給されることがなく、回復することが難しいため、今後の生息状況を見守ることが必要です。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブックに掲載されているほ乳類はありません。

ほ乳類の確認メッシュ数の変化



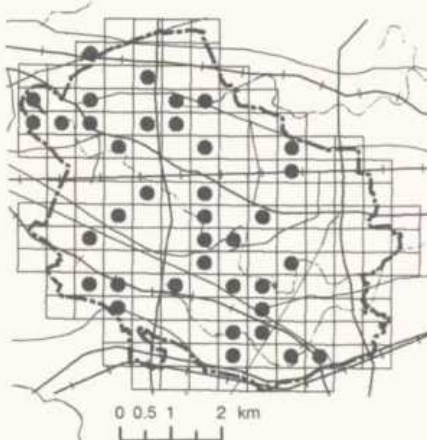
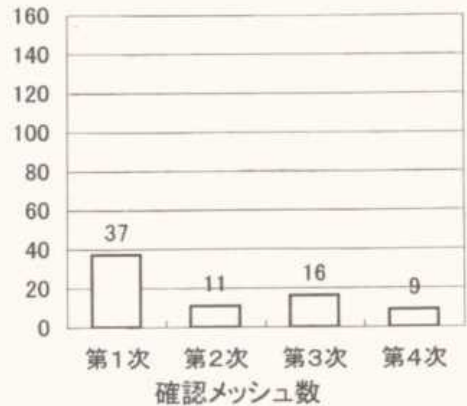
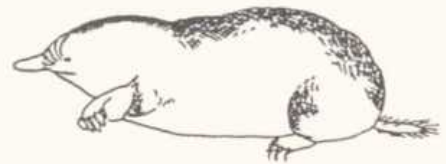
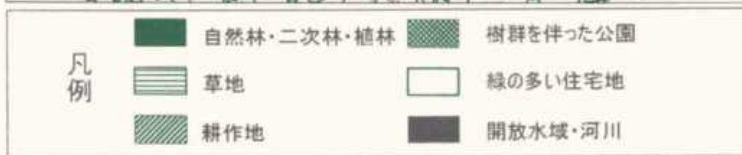
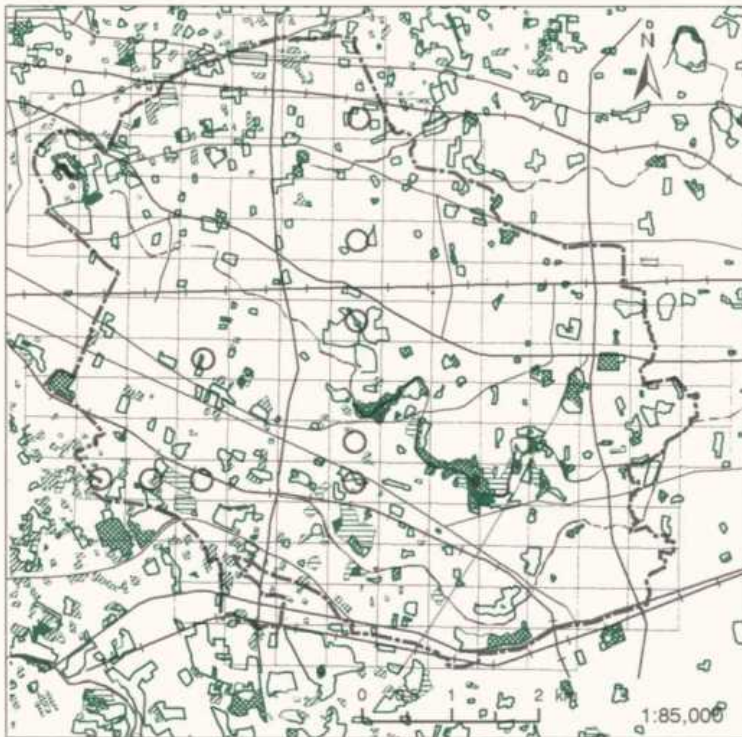
■主なほ乳類の生息状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

モグラ

地中の昆虫やミミズなどを餌にしているため、有機物の多い土壌が広い面積なければ生活することができません。現在はこのような環境が孤立している状況にあります。

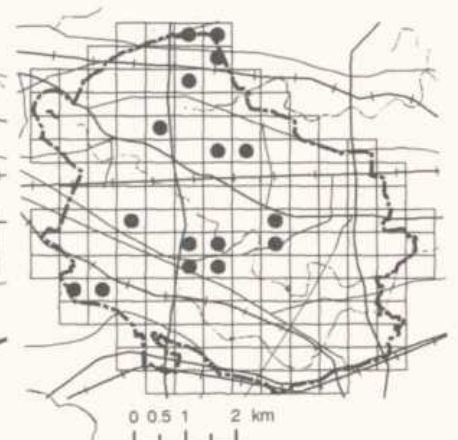
第1回調査から全体として分布が減少する傾向にあります。前回確認された場所はみどりの多い場所に限られる傾向がみられましたが、今回確認された場所はそのような傾向がみられませんでした。



■第1回調査



■第2回調査



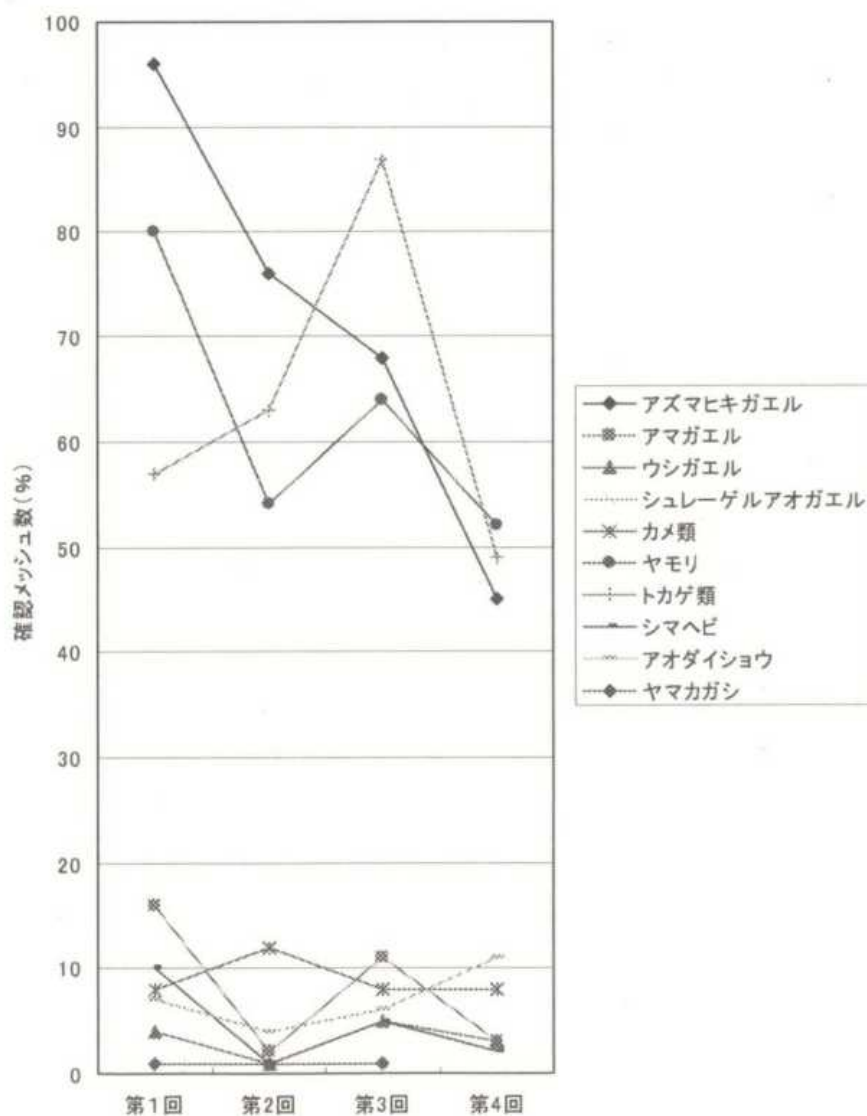
■第3回調査

(5) 両生・は虫類

アンケート調査で確認された種類は、両生類がヒキガエル、アマガエル、ウシガエルの3種類、は虫類がヤモリ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビ、アオダイショウの5種類とカメ類です。これ以外でシュレーゲルアオガエルが第3次調査で、ヤマカガシが第3次調査まで確認され、第4次調査では確認されませんでした。多くの種類では増減の傾向はみられませんが、ヒキガエルは確認メッシュの明らかな減少がみられます。

これらの種類のうち、環境省や東京都のレッドデータブックに掲載されている両生・は虫類は、ヒキガエル(アズマヒキガエル)、ヤモリ、トカゲ(ニホントカゲ)、シマヘビ、アオダイショウがあげられます。

両生・は虫類の確認メッシュ数の変化



※カメ類は飼育下から逸出した種類のみである。トカゲ類はトカゲとカナヘビである。

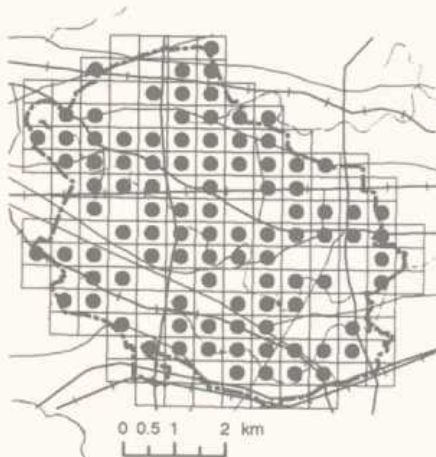
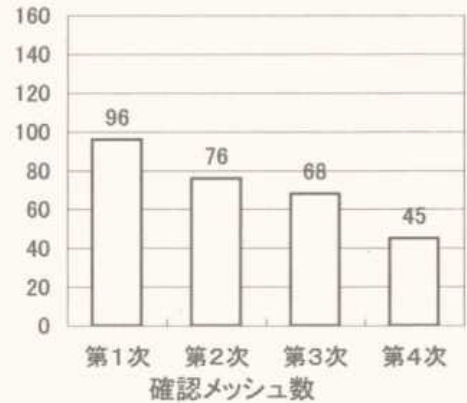
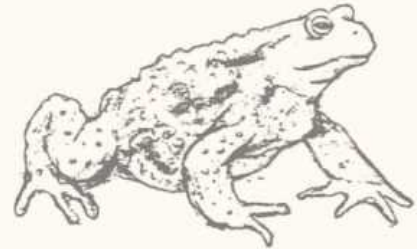
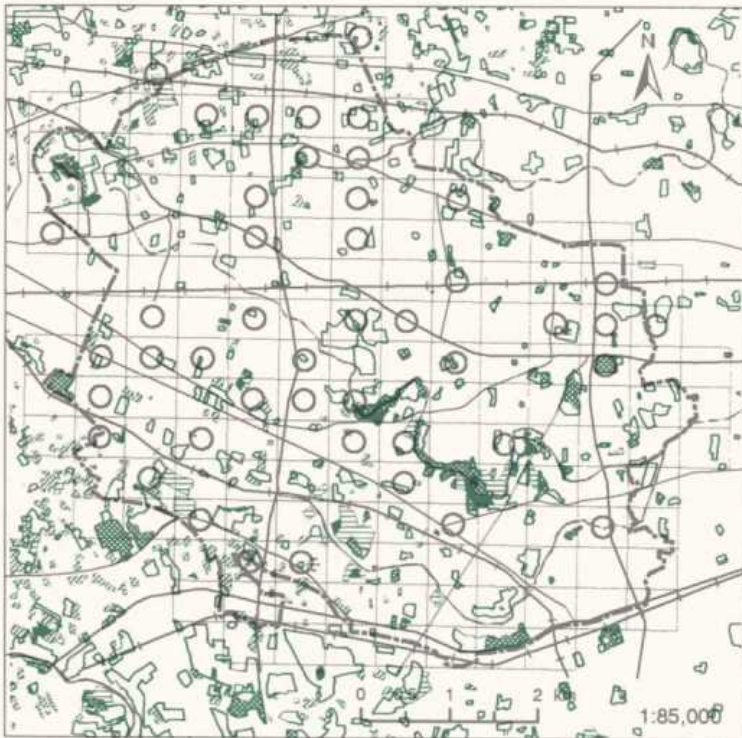
■主な両生・は虫類の生息状況と環境

アンケート調査の結果で、杉並区の環境の特徴をよく表している種類の区内での分布状況を紹介します。

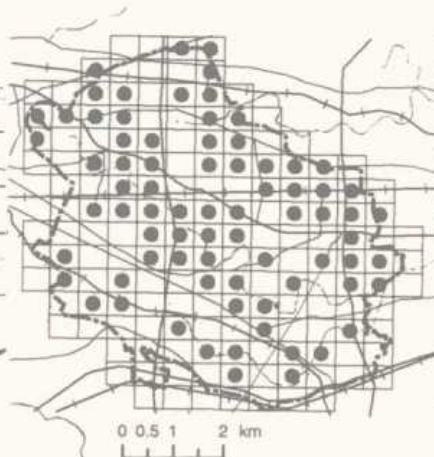
ヒキガエル

区内に広く分布し「ガマ」とも呼ばれており、庭の池などでも産卵し、古くからある庭木の多い住宅地などでも生息が可能です。

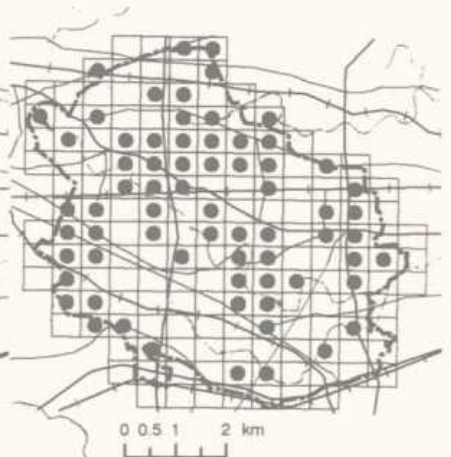
第1回調査から徐々に分布が減少する様子がみられます。その原因として、繁殖のための水辺、あるいは餌になる昆虫やミズなどが減っていることのほか、繁殖期に長距離を移動する際に交通事故に遭ってしまうことなども1つの原因と考えられ、ヒキガエルにとって杉並区はすみづらい環境になりつつあるのかもしれない。今回確認された場所では、特にみどりの多いところと重なる傾向はみられませんでした。



■第1回調査



■第2回調査

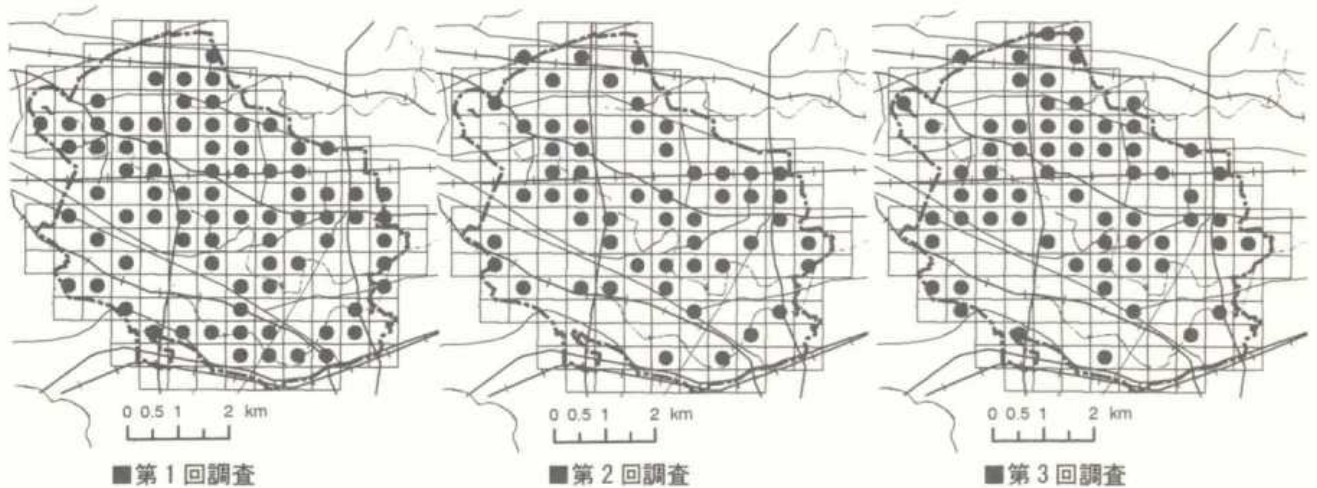
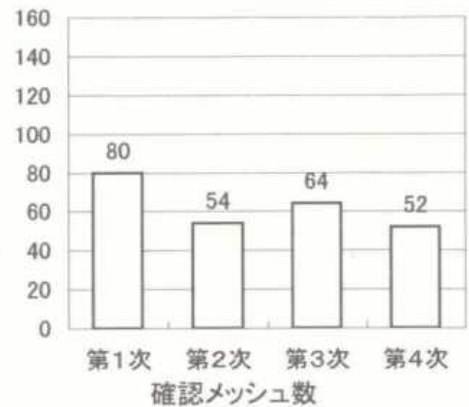
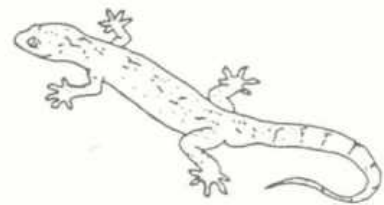


■第3回調査

ヤモリ

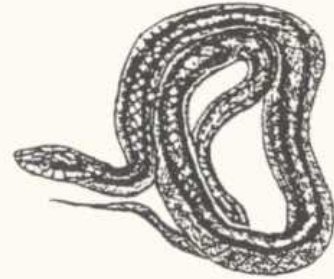
住宅やその周りにすんでおり、屋外灯などに集まった小さな昆虫を食べています。人間が造り出した環境にうまく適応しています。

第1回調査から全体として分布が減少する傾向にあります。今回確認された場所は、緑がやや多いか中程度の場所と重なる傾向にあり、みどりが少ない場所では分布していない様子がみられ、住宅地に生息が可能とはいっても中心市街地では生息しづらいのかもしれませんが。

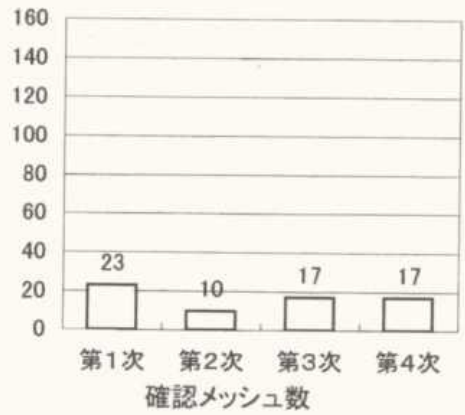
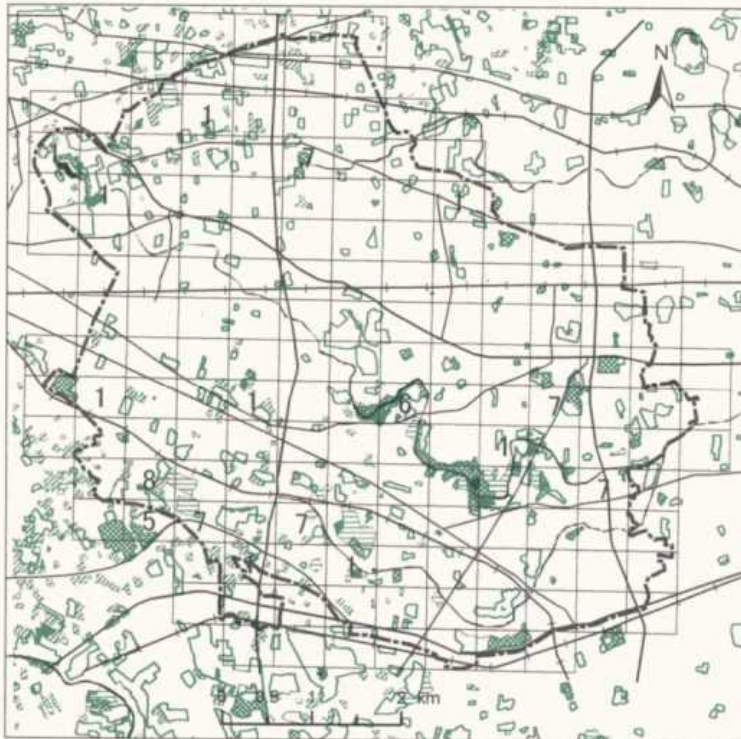


ヘビ類

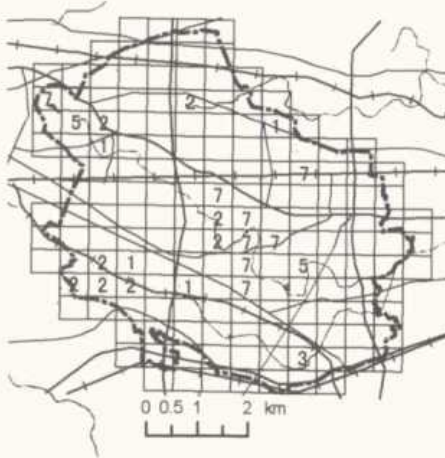
もともと記録が少なく、今回も前回と同様善福寺川、神田川、妙正寺川の緑地帯を中心に分布しています。分布の増減は特にみられませんでした。



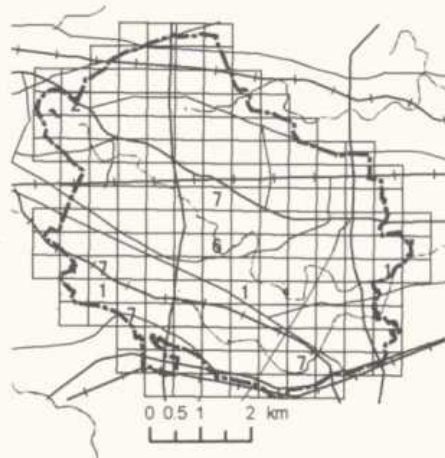
アオダイショウ



- 1 アオダイショウ
- 2 シマヘビ
- 3 ヤマカガシ
- 4 アオダイショウ・ヤマカガシ
- 5 アオダイショウ・シマヘビ
- 6 アオダイショウ・不明種
- 7 不明種
- 8 シマヘビ・不明種



■ 第1回調査



■ 第2回調査



■ 第3回調査

4 すぎなみの生き物たち（まとめ）

<杉並区の環境の変化>

杉並区は、少なくとも明治時代のころは「武蔵野の雑木林」のある農村であり、生き物のにぎわいのあふれる豊かな里の自然が広がっていました。それが徐々に市街化が進み、現在では、ほとんどが市街地となり、大きな緑地でも10ha前後で、善福寺川や神田川沿いに断片的に緑地が残っているという状態にまで変わってしまいました。現在でもさらに緑地は減少しつづけ、残された緑地も人為の影響がさらに大きく加わり、より単純な構成になりつつあります。また、地球の温暖化やヒートアイランド現象により気温が上昇傾向を示し、さらに地下水位の低下や湿度の低下などにより、土地の乾燥化が進みつつあることも考えられます。このような環境条件の変化に伴って、植物や動物などの生き物たちの状況も様々に変化しています。

<生き物たちの変化>

植物では、絶滅が危惧される種類や区内での生育が注目される種類の減少や、かつては普通にみられたヨモギの分布の減少など、生育環境が単調になりつつあることを示唆しています。

動物では、クモ類や鳥類の生息個体数の減少を示すデータが示されています。このことは区内全体で生息できる生き物の量が減少していることを示唆しています。今後さらに環境の単調化が進めば、種類数の減少も考えられます。このことは、コガタコガネグモ、カマキリ類、オオミズアオ、スズメ、ウグイス、モグラ、ヒキガエルなどの様々な種類でも分布や個体数の減少が確認されていることからもうかがえます。

しかし、一方では、トンボ類のように、種類や個体数が増加していると考えられる種群もあり、水辺環境の増大や多様化など一部環境の改善効果が現れている場面もみられます。

<すぎなみの自然環境の特徴>

このような状況の中で、植物の野生種が570種類、クモ類が152種類、昆虫類が414種類、鳥類が40種類、ほ乳類6種類、両生類3種類、は虫類7種類など、合計1000種類以上の生き物が確認されています。これらの生き物は、現在の杉並区の環境の多様性に支えられています。その骨格は、善福寺川と神田川及びそれに付随する池及び川沿いに点在する樹林地や草地、農地などの緑地です。また、善福寺公園や善福寺川緑地及び和田堀公園などの樹林地や様々な緑地がまとまってみられるエリアも骨格の中の主要な拠点の役割を果たしています。さらに、区内全域で屋敷林や社寺林などの小規模な樹林地、個人の庭の身近なみどりなどの小規模なみどりが点在して、それらが集まって杉並の自然を構成しています。（参考として杉並区の自然環境をはかる“ものさし”となる「指標生物」を右に示します。）

<多様な生き物を育む取り組みに向けて>

今後生き物たちのにぎわいを少しでも取り戻すためには様々な取り組みが考えられますが、まず取り組むべきこととして短・中期的には、現在残されている緑地の自然の質を高めること、具体的には生き物の生息地として多様な環境で構成されるエリアを設けること、必要な管理や利用の制限を継続的にしていくことなどです。さらに長期的には、骨格となる緑地を極力連続させ、周辺府の自然性が高い場所とつなげることが必要となります。また、これらの生き物のにぎわいを取り戻す試みの効果を見極めるためのモニタリング調査を行うことも必要です。これまで継続してきた調査がそれに当たりますが、今後はそれをさらに強化する必要があると考えられます。

■自然環境調査とアンケート調査により確認された生物の種類数

分類群		種類数	調査区分
植物		570	自然環境調査
動物	クモ類	152	自然環境調査
	昆虫類	414	自然環境調査
	鳥類	40	自然環境調査
	ほ乳類 ^{※1}	6	アンケート調査
	両生類	3	アンケート調査
	は虫類 ^{※2}	7	アンケート調査

※1 ネズミ類はクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの3種類とした。

※2 カメ類は、イシガメとクサガメの2種類としたがいずれも飼育下から逃げ出した逸出種である。またミシシッピーアカミミガメは外来種であり、ここでは種類数に数えていない。

■指標生物

特徴的な環境を表す以外に、なるべく区民にわかりやすく、記録が得られやすい（稀少生物でない）生き物を取り上げています。

例えば、ニイニゼミやヒグラシが少なくなるということは、樹林環境が全体的に減少している、樹林の規模が小さくなっている、樹林内が単調な構成になっていることなどを示します。このように、生息している場所や生息数を継続的に記録し変化をみることによって、区内の自然環境の変化をとらえることができます。

指標環境 分類群	自然環境のタイプ						都市	大気汚染	昆虫類相の豊富さ (自然環境の豊かさ)	
	樹林		林縁	草地	水辺					緑の多い住宅地
	屋敷林・社寺林	雑木林			水生植物の生える水辺	水生植物の生えないよどんだ水辺				
高等植物	フタリス [*] カ ホウチャクソウ ヤブコウジ ノキソノブ	ハエト [*] クソウ カマス [*] ミ ヌスビトハギ [*] サワフタギ [*]	キイチゴ [*] 類 (モミジ [*] イチゴ [*] ニカ [*] イチゴ [*] 等) サルトリイハラ ミツハ [*] アケビ [*] クス [*]	ススキ チカ [*] ヤ ヤブカンゾウ [*] ウ ノカンゾウ [*] ウ ワレモコウ カントウタンボ [*] ホ	カ [*] マ類 イ(イ [*] チ) ^{※1} ヨシ セリ ミヅ [*] ソバ [*] オキ ^{※1}	-	-	セイヨウタンボ [*] ホ ハルシ [*] オン ヒメシ [*] ヨオン チチコク [*] チモト [*] キ ウラジ [*] ロチチコク [*] チ カ [*] ミヒナゲシ	スキ ^{※1} (大気汚染に弱い)	-
クモ類	シ [*] ヨロウク [*] モ	-	-	-	-	-	-	-	シ [*] ヨロウク [*] モ	
昆虫類	ニイニゼミ [*] カネタキ	ヒグラシ [*] クワカ [*] タムシ類 ゴ [*] マク [*] ラチョウ	カマキリ類	ベ [*] ニシジ [*] ミ	キイトンボ [*] ハク [*] ロトンボ [*]	コシアキトンボ [*]	カネタキ	-	ヒグラシ [*] カマキリ類	
鳥類	コゲラ [*] ウク [*] イ	-	-	カルガモ	-	ウク [*] イ	ウハ [*] メ ^{※2}	-	-	
哺乳類	-	-	-	-	-	アブ [*] ラコウモリ	モク [*] ラ ^{※2}	-	-	
両生類	-	-	-	-	-	ヒキカ [*] エル	-	-	-	
爬虫類	-	-	トカゲ [*] 類	-	-	ヤモリ	ヤモリ	-	-	

※1太字は杉並区の地名の由来となっている種類。

※2都市化が進行すると減少する。

自然環境とアンケート調査の詳しい内容・結果の問い合わせは、

杉並区環境清掃部環境課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

電話 03-3312-2111 (代表)

まで、お願いいたします

登録印刷物番号

14-0191

すぎなみの生き物たち 3

—すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ—

平成 14 年度版

平成 15 年 3 月発行

編集・発行

杉並区環境清掃部環境課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

電話 03-3312-2111

・本紙は、古紙配合率 100% 白色度 70% の再生紙を使用しています。